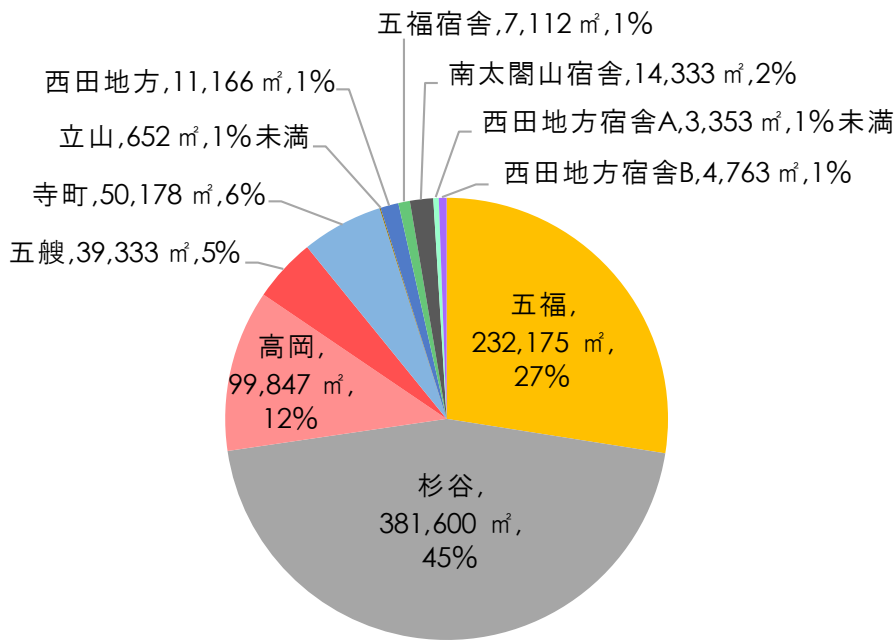


## V. キャンパスの現状と課題

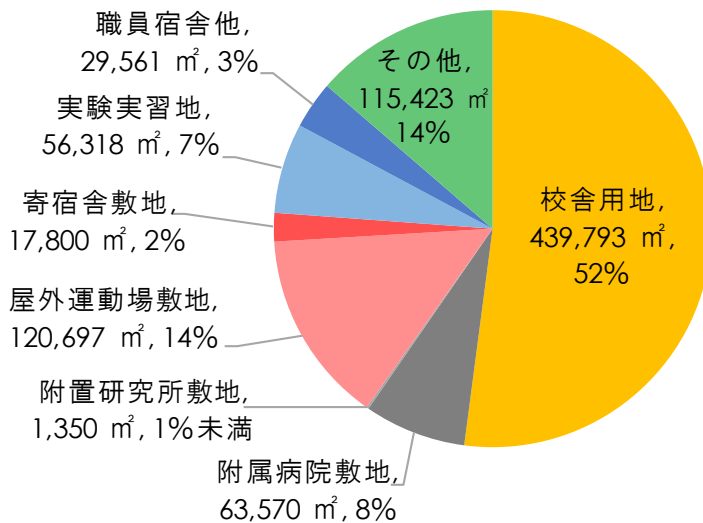
<b>29</b>	キャンパスの基礎データ	<b>P91</b>
<b>30</b>	点検・評価	<b>P100</b>
<b>31</b>	「キャンパスマスタープラン2020」の検証	<b>P111</b>
<b>32</b>	第2次・第3次・第4及び第5次国立大学等 施設整備5か年計画における整備建物等	<b>P129</b>
<b>33</b>	キャンパス整備の課題	<b>P142</b>

- 本学は、844,512㎡（国立大学では38番目）の土地を保有している。
- 五福キャンパス、杉谷キャンパス及び高岡キャンパスで全体の85%を占めている。
- 敷地利用区分では、校舎敷地が全体の約5割、運動場敷地は14%となっている。
- 杉谷キャンパスにおいて、その他用地としている敷地（11万㎡弱）は埋蔵文化財包蔵地及び崖地であり、建物敷地や整備予定地にはなじまないため、特徴を生かした利用方法を検討する必要がある。

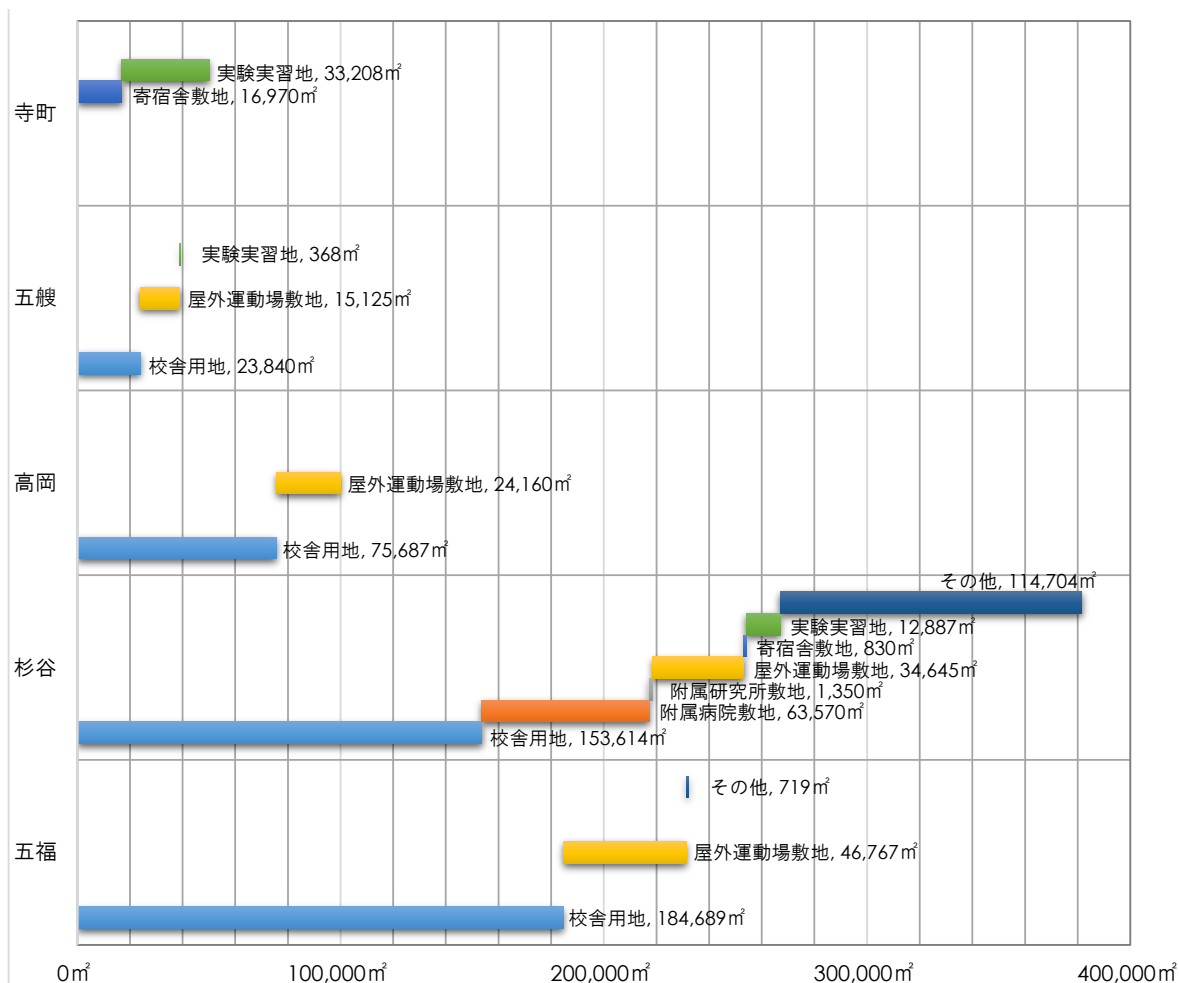
図表-29.1 キャンパス等の土地面積と割合



図表-29.2 敷地利用区分状況と割合



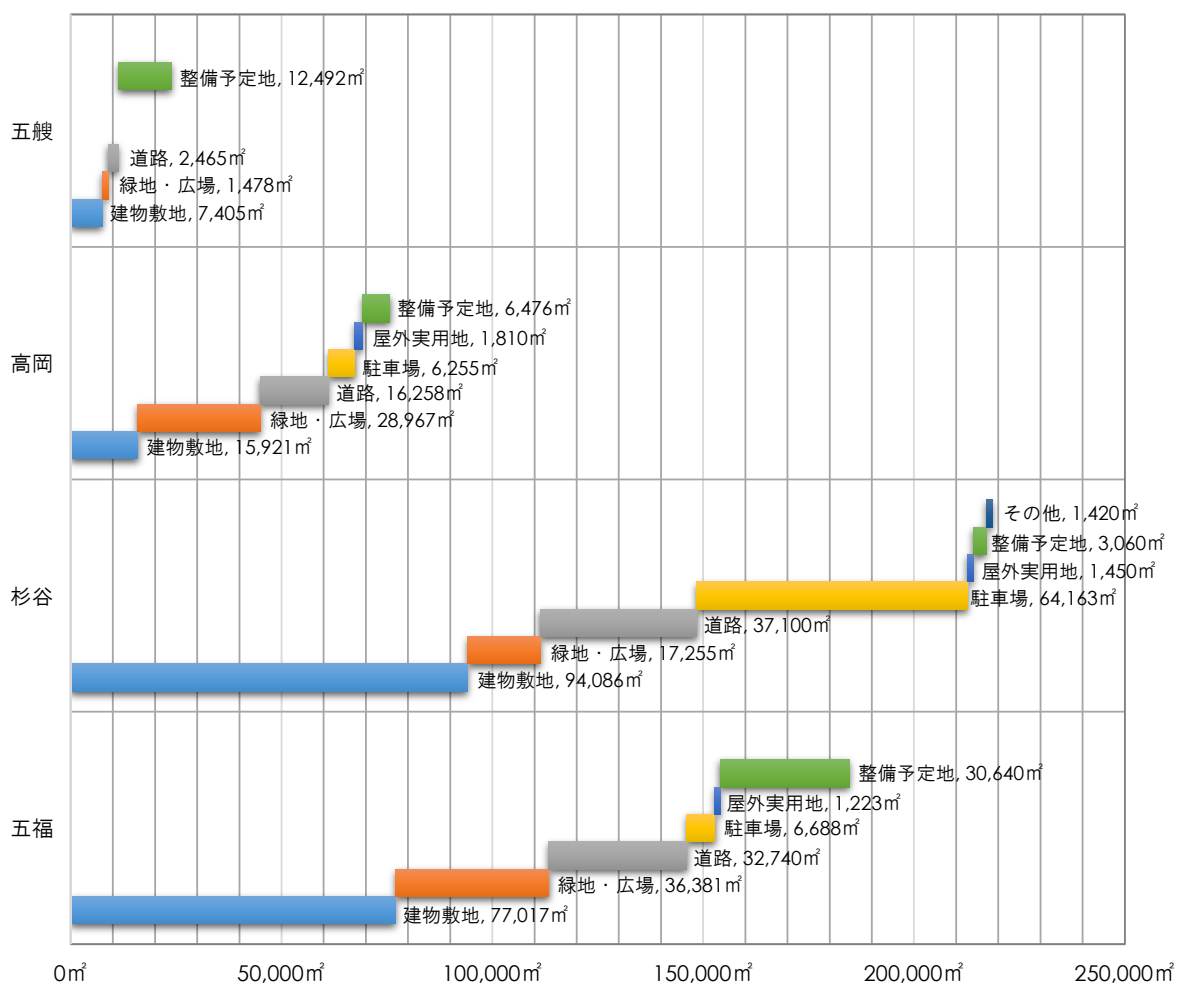
図表－29.3 キャンパス等の敷地用途区別状況



図表－29.4 敷地用途区分

校舎用地	校舎，屋内運動場，講堂等の建物敷地及びその周辺の敷地
附属病院敷地	附属病院の建物敷地及びその周辺の敷地
附属研究所敷地	附属研究所及び共同利用機関等の建物敷地及びその周辺の敷地
屋外運動場敷地	屋外運動場及びその周辺の敷地。また，屋外運動用固定施設及び附属施設の敷地も含む。
寄宿舍敷地	寄宿舍の建物敷地及びその周辺の敷地
実験実習地	実験実習地及びその周辺の敷地。また，実験実習地の建物敷地も含む。
職員宿舍地	職員宿舍その周辺の敷地
その他	上記以外の敷地（湿地・崖地等）

図表-29.5 キャンパス等の校舎等敷地の利用状況区分



図表-29.6 校舎等敷地の利用状況区分

建物敷地	校舎等敷地内にある建物のための限定された用地
緑地・広場	校舎等敷地内で、将来とも建物を建てる予定がなく、ある程度まとまった緑地・広場で、主要な建物の前庭としての働きをする場所、または正門付近、図書館等の周辺で静かな環境を維持するための場所、保存緑地及び池等の敷地
道路	校舎等敷地内の幅員 2 m以上の道路及び道路と一体となったロータリーの敷地。未舗装の敷地も含む。
駐車場	校舎等用地で駐車専用で使用している敷地。道路の一部を駐車場として使用している部分も含む。
屋外実用地	校舎等敷地内の小規模な屋外運動場及び実験実習地
整備予定地	校舎等敷地で将来、建物敷地、駐車場等に利用予定の敷地
その他	上記以外の校舎等敷地（湿地・崖地等）

図表-29.7 キャンパス等の敷地状況

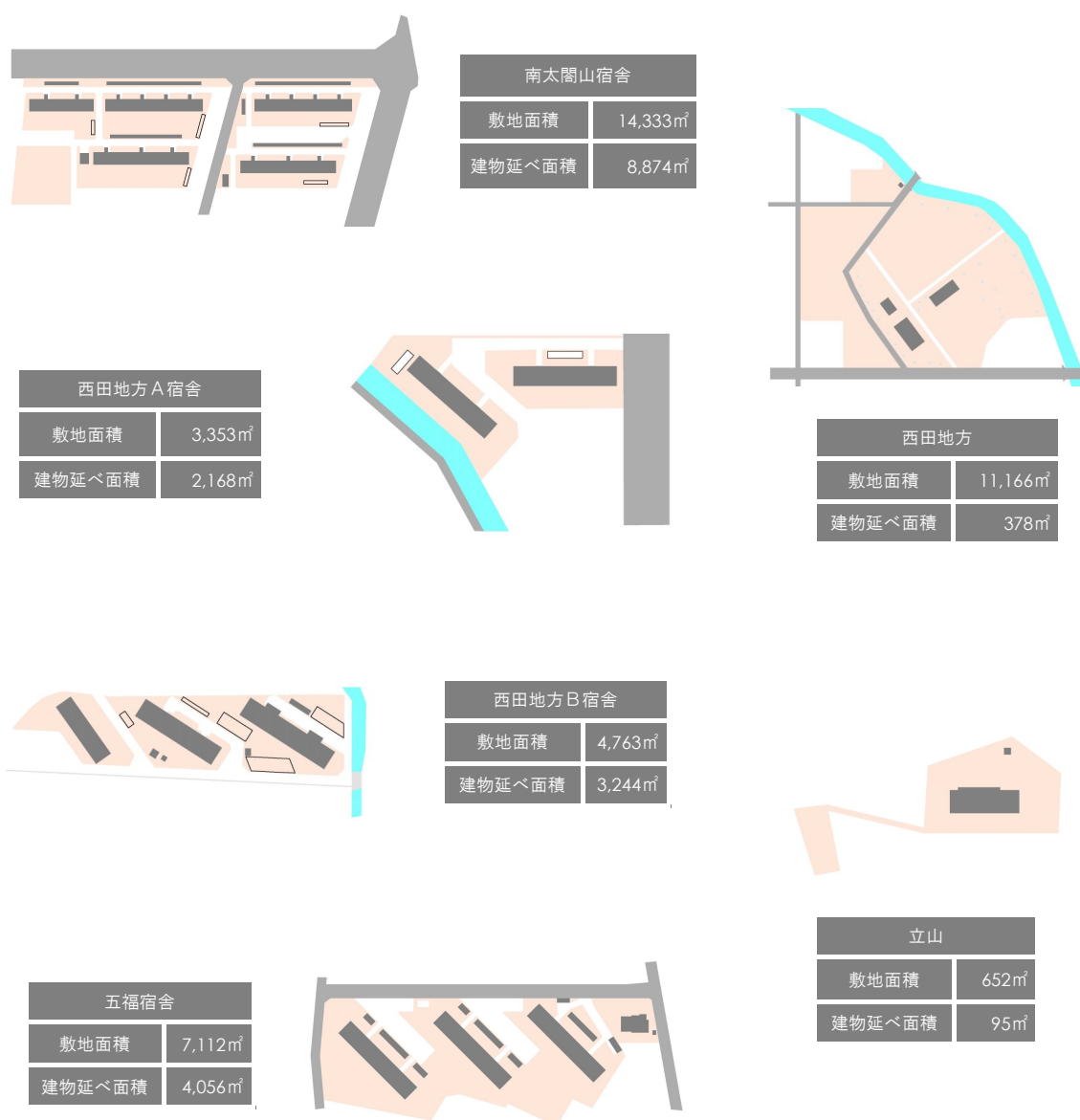


図表-29.8 キャンパス等の敷地概要

キャンパス及び団地	五福	杉谷	高岡	五艘	寺町
敷地面積 (㎡)	232,175	381,600	99,847	39,333	50,178
建物面積 (㎡)	147,112	167,600	22,043	15,814	9,063
標高 (m)	10.0	56.1	4.1	10.0	15.0
敷地の高低差 (m)	1	12	0.6	2	30
建ぺい率 / 規定値 (%)	24 / 60	14 / -	12 / 60	21 / 60	7 / 60
容積率 / 規定値 (%)	63 / 200	44 / -	22 / 200	40 / 200	18 / 200

※建ぺい率及び容積率の規定値は、建築基準法第52条、同53条の規定によるもの

図表-29.9 実験実習地と職員宿舎の敷地状況

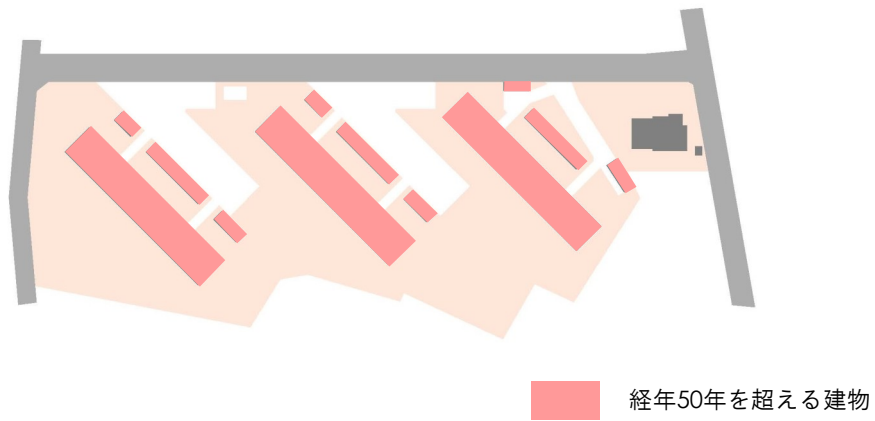


図表-29.10 実験実習地団地と職員宿舎の敷地概要

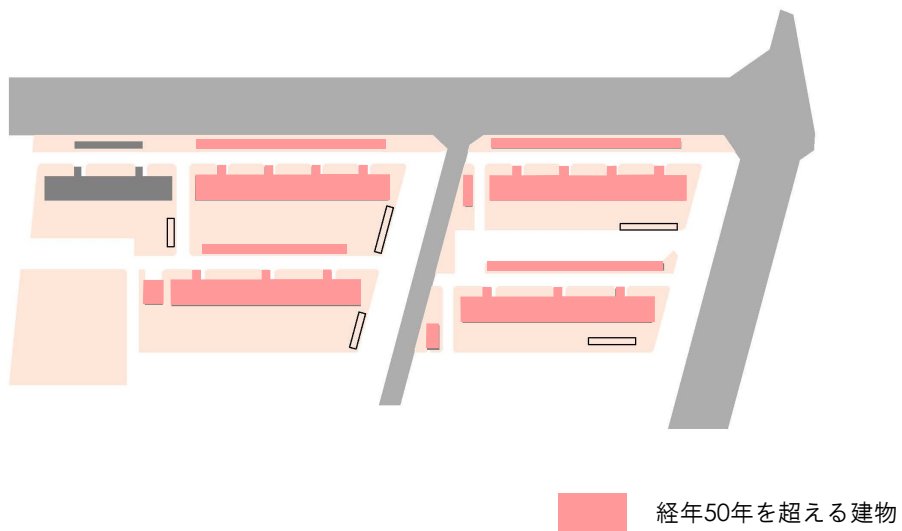
キャンパス及び団地	西田地方	立山	五福	南太閤山	西田地方A	西田地方B
敷地面積 (㎡)	11,166	652	7,112	14,333	3,353	4,763
建物面積 (㎡)	378	95	4,056	8,874	2,168	3,244
標高 (m)	11.2	2,831	7.5	20	11.2	11.2
敷地の高低差 (m)	2	0	1	3	1	1
建ぺい率 / 規定値 (%)	3 / 60	15 / 70	18 / 60	18 / 60	16 / 60	12 / 60
容積率 / 規定値 (%)	3 / 200	15/400	57/200	62/200	65/200	68/200

※建ぺい率及び容積率の規定値は、建築基準法第52条、同53条の規定によるもの

図表-29.11 五福宿舍団地2030 建設後50年を超える建物



図表-29.12 南太閤山宿舍団地2030 建設後50年を超える建物



キャンパス		五福	杉谷	高岡
キャンパスの取得経緯		1949年に法令改正により富山師範学校より富山大学に所管替えされた。工学部の敷地は1971年から購入し、現在のキャンパスが概成したのは1991年となっている。	1975年富山県土地開発公社が用地を買収し、1981年度から1985年度の5か年度にわたり富山県より購入した。	1985年より富山県と土地貸借契約を締結し、校舎等の建設を着工し、1987年に富山県より購入した。
利用人数 (常時・人)	学生, 児童, 生徒等	約6,250	約1,900	約460
	教員	430	約350	約40
	職員	約260	約680	約20
給水	方式	市水, 井水	市水	市水・工業用水
	引き込み管径, 箇所数	50mmφ:1 100mmφ:2 150mmφ:1	200mmφ:1	40mmφ:1 100mmφ:1
ガス	方式	都市ガス, ボンベガス	都市ガス	ボンベガス
	引き込み管径, 箇所数	150mmφ:2 200mmφ:2	200mmφ:1	—
契約電力	種別	高压電力B	特別高压電力 予備電力	業務用電力
	電力	3,650kW	6,200kW	421kW
自家発電装置		150KVA1台 非常用	3,000KVA2台 非常用	—
電話交換機	機種と回線数	PBX※:1,456	PBX:1,840	PBX:288
排水	方式	分流	分流	分流
	処理方式	公共下水道	公共下水道	公共下水道
特定事業場 ※		該当	該当	該当

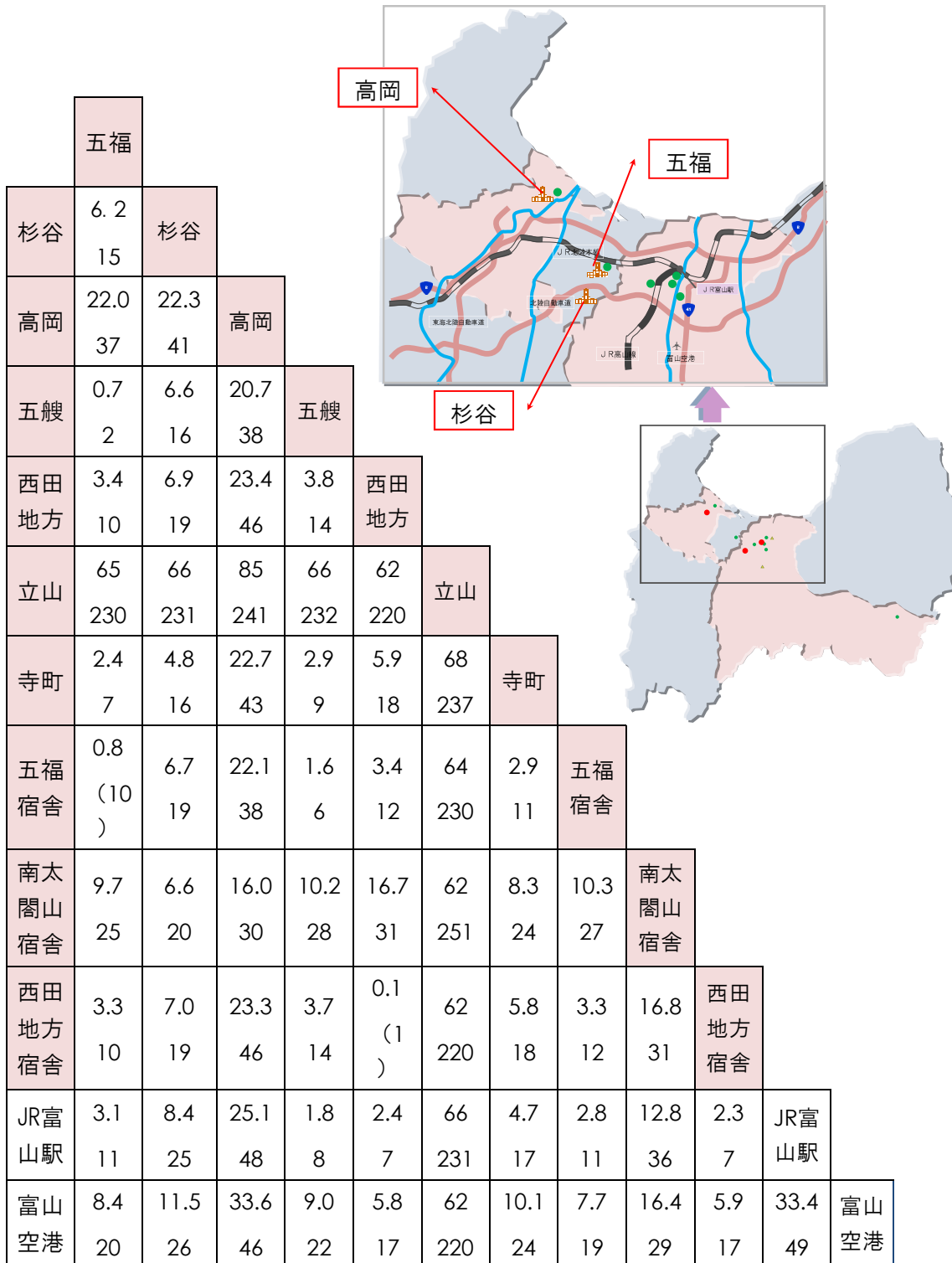
図表-29.14 キャンパス等の概要 2/2

団地		五艘	寺町	西田地方
キャンパスの取得経緯		1951年に富山県より寄附され、数度の土地購入を経て1987年に概成している。	1965年から1966年にかけて富山市との交換により概成している。	1952年に富山県、翌年1953年には富山大学設置期成同盟会から寄附され、1979年に概成している。
利用人数 (常時・人)	学生, 児童, 生徒等	1,120	約360	0
	教員	約90	0	0
	職員	4	0	1
給水	方式	市水	市水	市水
	引き込み管径, 箇所数	25mmφ:1 40mmφ:1 50mmφ:2 80mmφ:1	25mmφ:1 40mmφ:1 50mmφ:1	50mmφ:1
ガス	方式	都市ガス, ボンベガス	ボンベガス	都市ガス
	引き込み管径, 箇所数	25mmφ:1 80mmφ:2 100mmφ:1	—	50mmφ:1
契約電力	種別	業務用電力	業務用季節別時間 帯別電力	低圧電力従
	電力	331kW	149kW	3kW
自家発電装置		38KVA1台 消火栓用	—	—
電話交換機	機種と回線数	PBX※:120	—	—
排水	方式	分流	分流	分流
	処理方式	公共下水道	公共下水道	公共下水道
特定事業場※		—	—	—

※PBX (Private Branch Exchange) : 内線電話同士の接続や公衆電話網への接続を行うために使用される機器

※特定事業場: 水質汚濁防止法 (昭和45年法律第138号) に規定する特定施設等を設置する事業場をいう。

図表-29.15 キャンパス間等の距離と所要時間



上段：距離km

下段：車を利用したの所要時間min, ( )内は歩行のみによる所要時間min

## A.大学機関別認証評価

point

令和6年度実施大学機関別認証評価評価報告書〔2025年（令和7）年3月〕

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 より

## 領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

- 4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。
- 4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること。

## 【評価結果】

基準4-1及び基準4-2を満たしている。

【評価結果】基準4-1を満たしている。

## 【評価結果の根拠・理由】

五福キャンパス（富山市五福）、杉谷キャンパス（同市杉谷）、高岡キャンパス（高岡市二上町）の3キャンパスを有し、その校地面積は計623,443㎡、校舎等の施設面積は計287,752㎡であり、大学設置基準に定められた必要校地・校舎面積以上が確保されている。

また、各キャンパス等での教育の実施状況については、別紙様式4-1-1のとおりであり、同一学年でキャンパス間の移動が生じないようにするなど、キャンパス間の移動を必要最低限に抑える配慮を行っている。

法令が定める附属施設については、別紙様式4-1-2のとおり、教育学部附属幼稚園、教育学部附属小学校、教育学部附属中学校、教育学部附属特別支援学校、附属病院、薬学部附属薬用植物園、工学部附属創造工学センター、機械工場を設置している。

別紙様式4-1-3のとおり、施設・設備における安全性について、配慮している。五福キャンパス、杉谷キャンパス及び高岡キャンパスの耐震化率は100%である。バリアフリー化については、身体障害者用駐車場の確保、出入口の自動ドア化、車いす対応エレベーターの設置等を実施し、大学ウェブサイトでアクセシビリティ・マップ（バリアフリーマップ）を公開するなど、配慮している。安全防犯面について

は、防犯カメラ・外灯の設置、ICカードによる時間外の入退館、AED（自動体外式除細動器）の設置等、配慮している。

ICT環境については、学内ネットワーク等を整備し、活用している。

附属図書館については、五福キャンパス、杉谷キャンパス、高岡キャンパス内に設置しており、延面積13,855㎡、閲覧座席数は1,499席である。原則として8時45分から22時まで開館している。令和6年5月1日現在の蔵書数は、図書1,324,268冊、学術雑誌22,873種、電子ジャーナル39,816種である。

自主的学習環境については、別紙様式4-1-6のとおり、学生会館ラウンジ、人文学部棟大学院生研究室及び情報処理実習室等が整備され、利用されている。

【評価結果】基準4-2を満たしている。

## 【評価結果の根拠・理由】

学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制として、学生支援センター学生相談室、保健管理センター等を設置し、別紙様式4-2-1のとおり対応している。各種ハラスメントに関しては、ハラスメント等の防止等に関する規則等に基づき、相談員が相談窓口となり、ハラスメント等防止委員会と連携し、ハラスメント等に関する相談に対応している。

166団体が課外活動を行っており、そのための施設として、別紙様式4-2-2のとおり、運動場、体育館、テニスコート等を整備し、運営資金の支援、備品貸与等を行っている。

留学生への生活支援等は、国際機構、学務部国際課を設置し、国際サポーター、チューターを配置するなど、別紙様式4-2-3のとおり体制を整備している。

障害のある学生への生活支援等は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき要領等を定め、別紙様式4-2-4のとおり、身体障害と発達障害、精神障害のある学生の修学支援、障害のある学生からの相談対応、発達障害のある学生の社会参入支援等を行っている。

学生に対する経済面での援助は、別紙様式4-2-5のとおり、大学独自の奨学金制度、入学料の免除、授業料の免除等を行っている。

## B.老朽化の状況

point

### 1.2025年における建設後50年を超えた建物の保有面積とキャンパスに占める割合

- 五福キャンパス：46,871㎡，約32%
- 五艘団地：8,904㎡，約56%
- 杉谷キャンパス，高岡キャンパス：なし

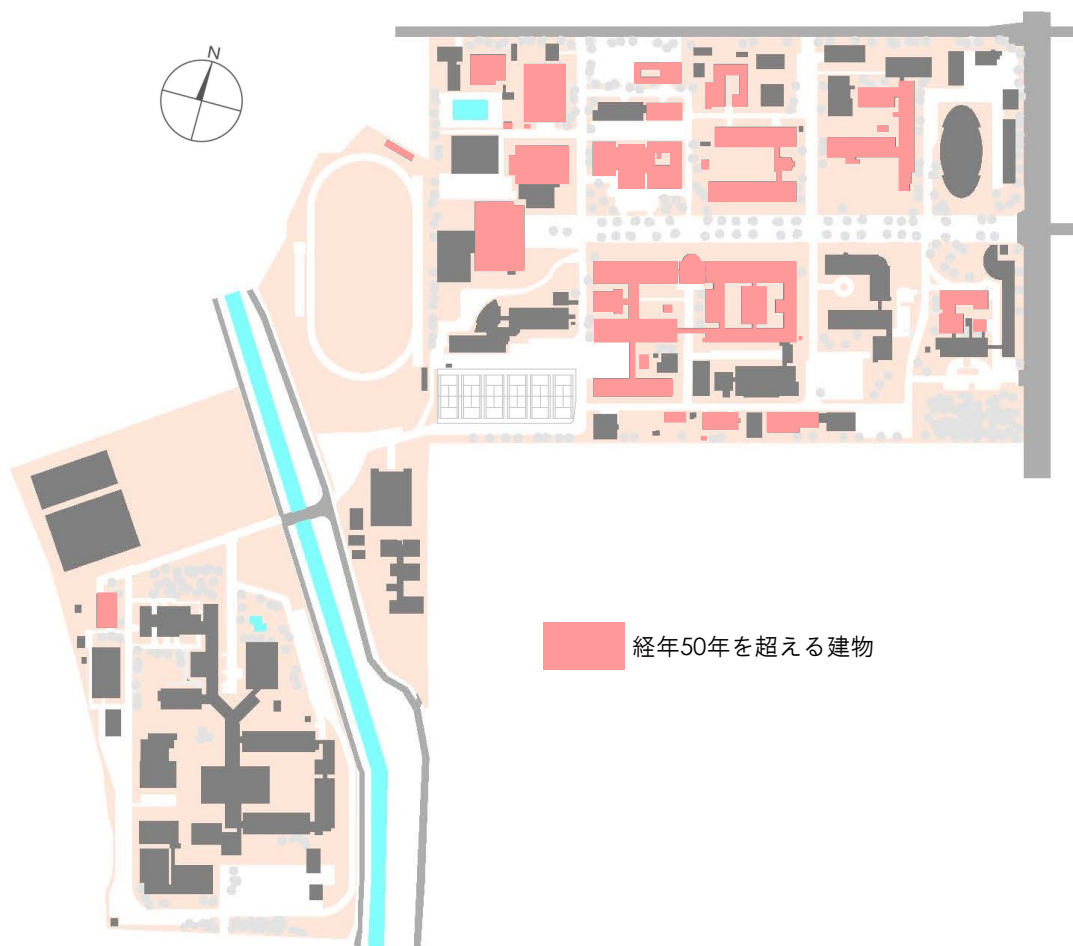
### 2.2040年における建設後50年を超える建物の保有面積とキャンパスに占める割合

- 五福キャンパス：91,690㎡，約62%
- 杉谷キャンパス：106,528㎡，約64%
- 高岡キャンパス：16,709㎡，約76%
- 五艘団地：14,140㎡，約89%

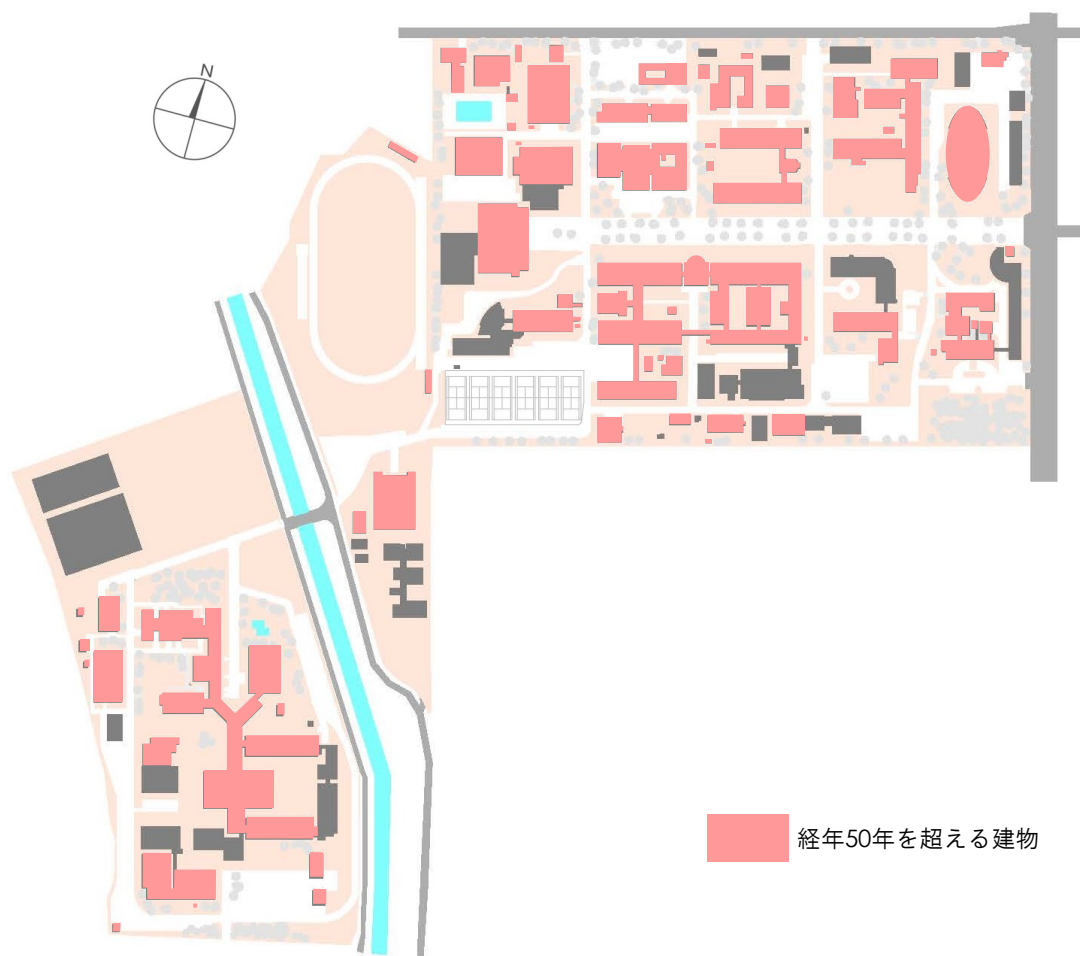
### 3.まとめ

- 2040年において，建設後経年50年を超える建物の保有面積は229,067㎡（65.2%）となり，再整備のフェーズに入っていく。
- 五福キャンパスを除いては，整備年度が集中し，急速に再整備のフェーズに移るため，長寿命化や長期使用を図り，改築する建物が単年度に集中しないように平準化を図る必要がある。

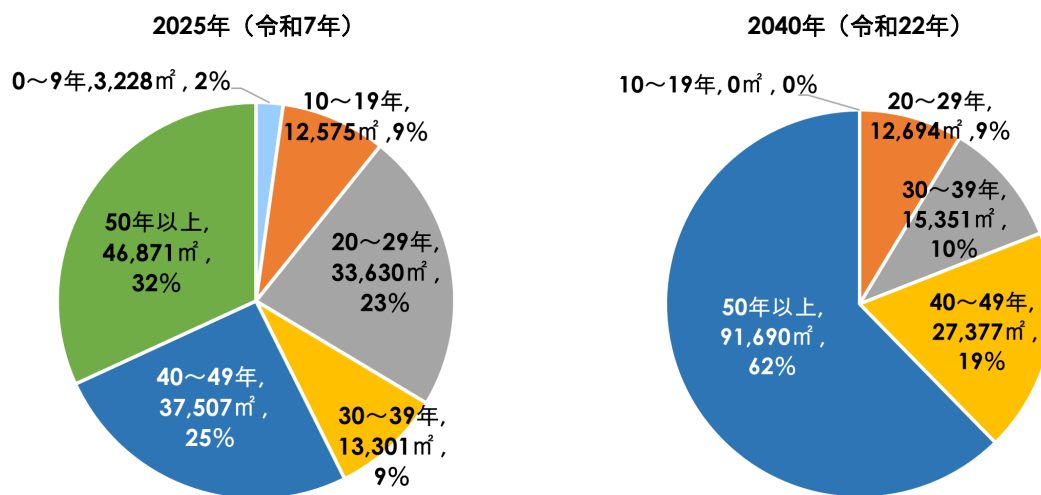
図表一30.1 五福キャンパス2025 建設後50年を超えた建物の割合



図表-30.2 五福キャンパス2040 建設後50年を超える建物の割合



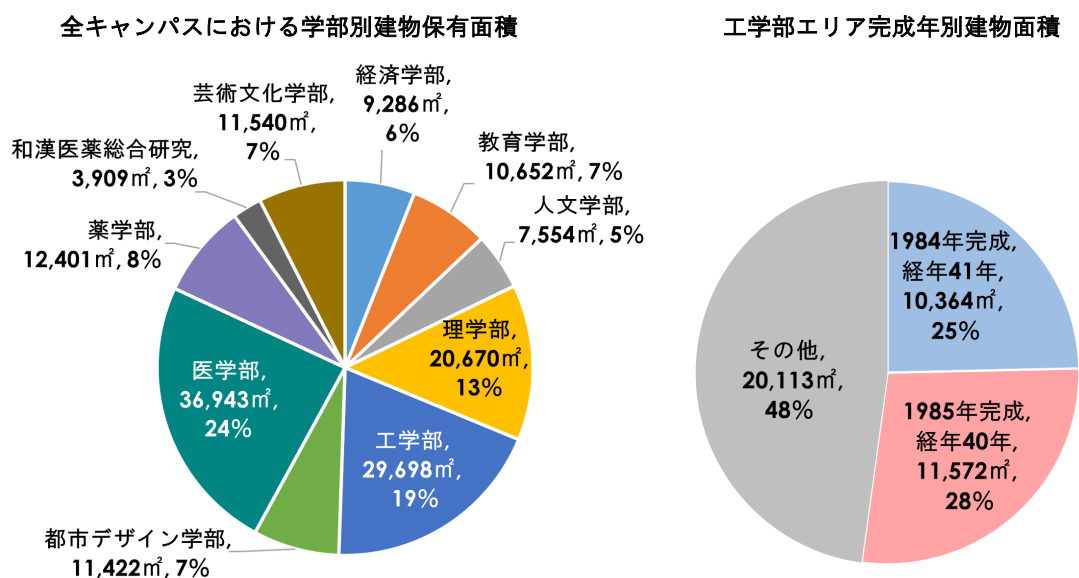
図表-30.3 五福キャンパス 建設後50年を超える建物の割合



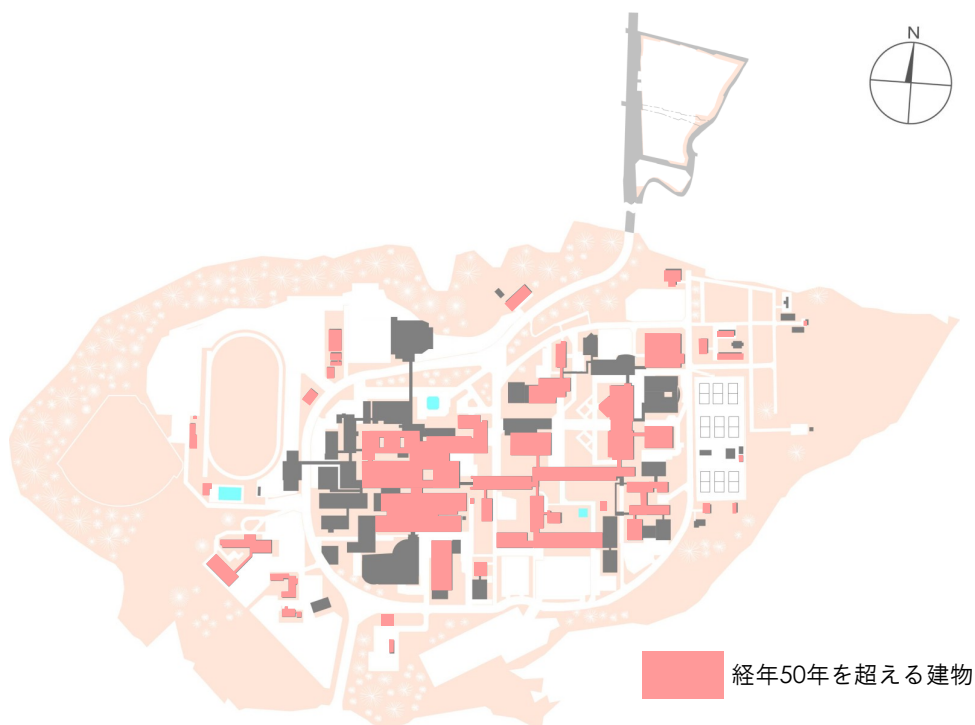
図表-30.4 五福キャンパス工学部エリア2025 完成年別建物経年



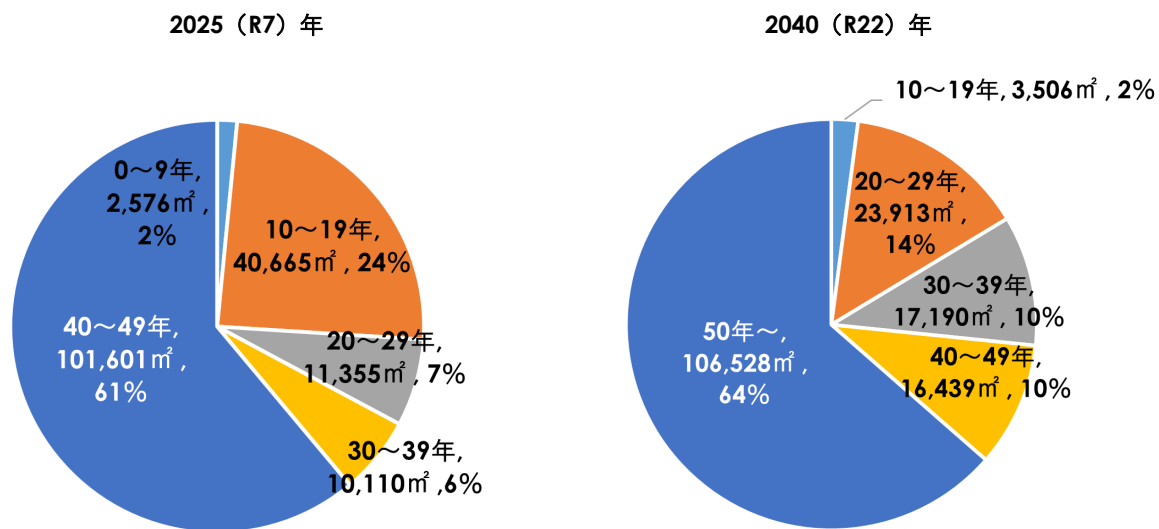
図表-30.5 五福キャンパス工学部2025 完成年別建物面積の割合



図表-30.6 杉谷キャンパス2040 建設後50年を超える建物の割合



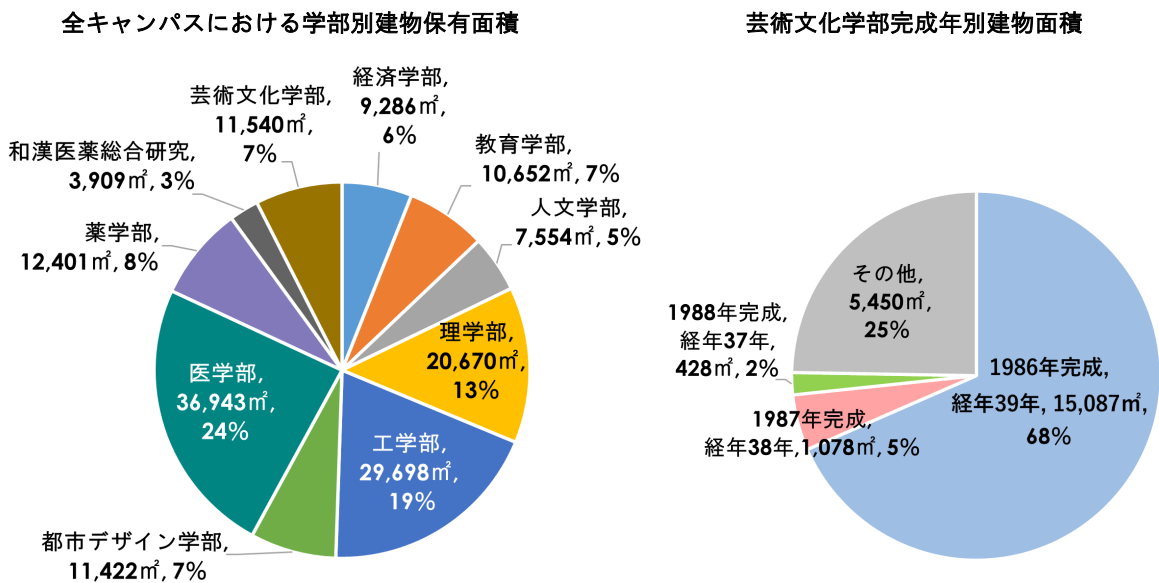
図表-30.7 杉谷キャンパス 建設後50年を超える建物の割合



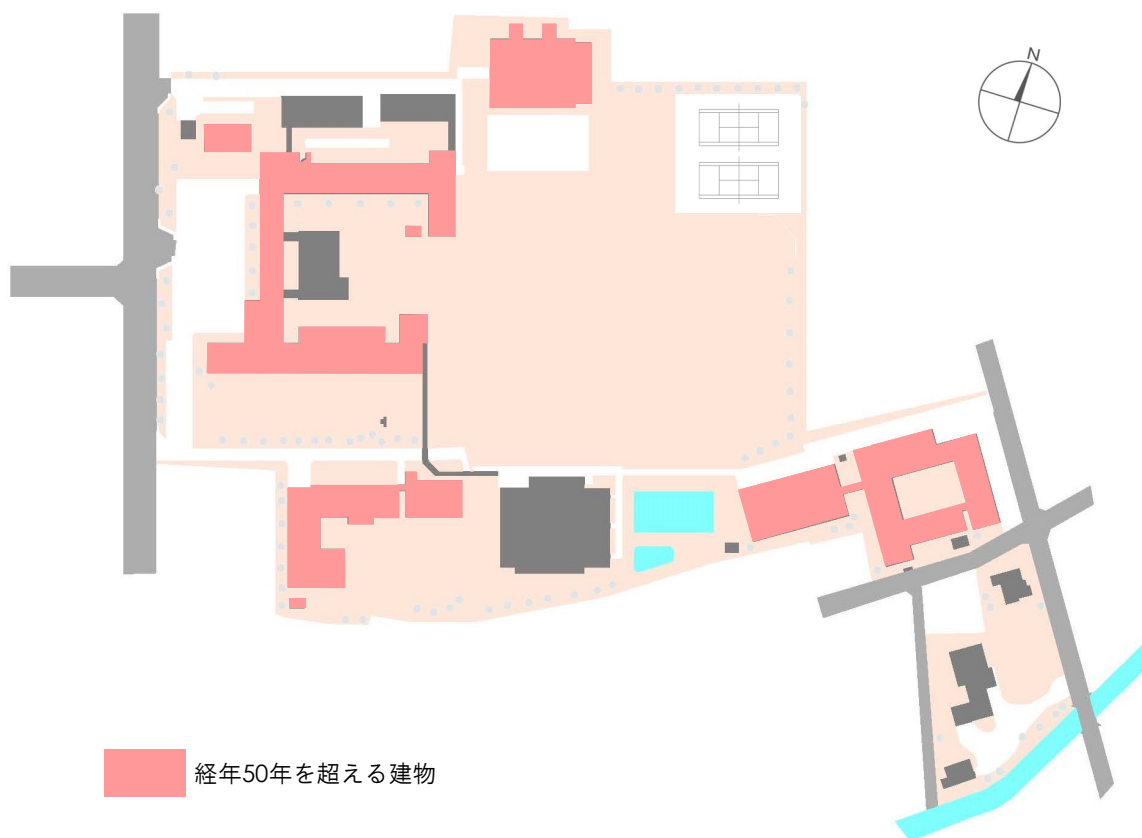
図表-30.8 高岡キャンパス芸術文化学部2025 完成年別建物経年



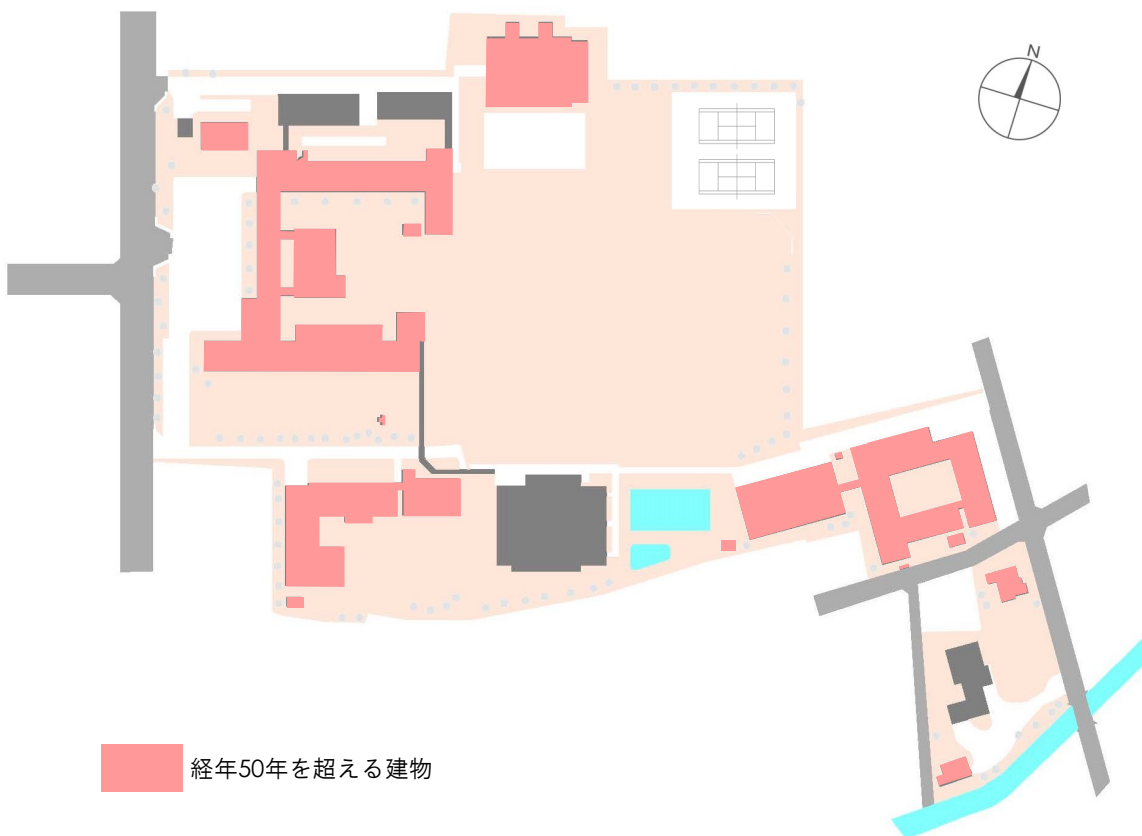
図表-30.9 高岡キャンパス芸術文化学部2025 完成年別建物面積の割合



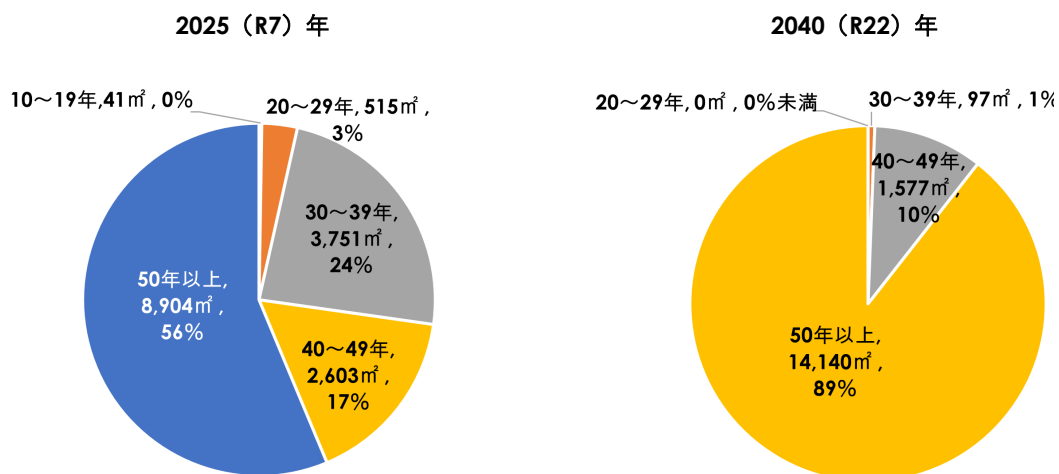
図表-30.10 五艘団地（附属学校園）2025 建築後50年を超える建物



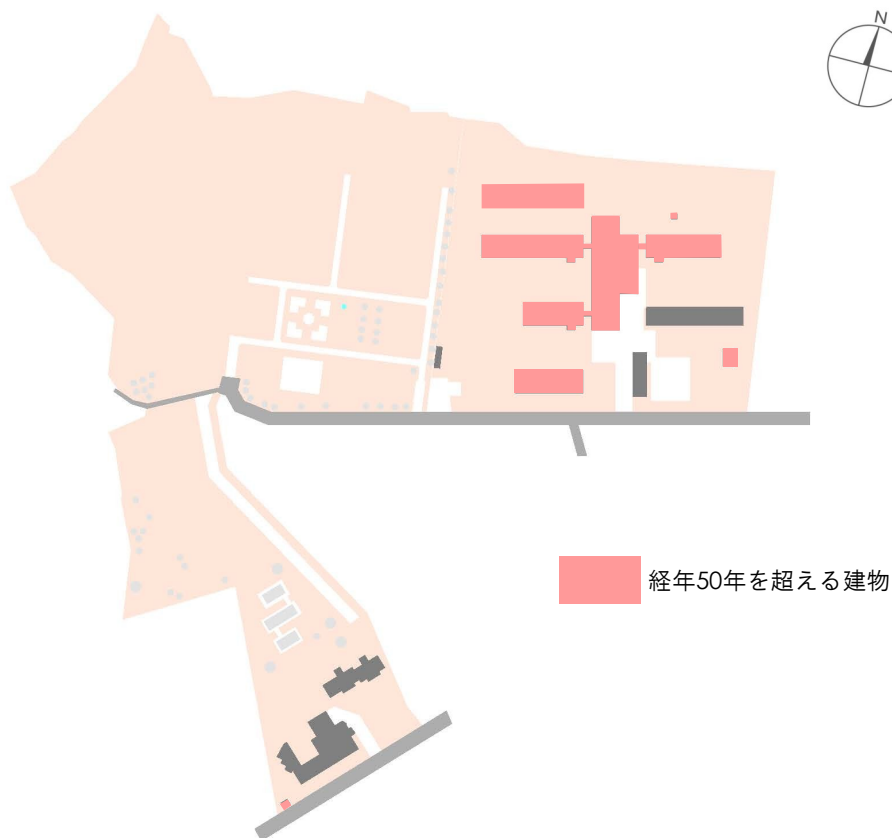
図表-30.11 五艘団地（附属学校園）2040 建築後50年を超える建物



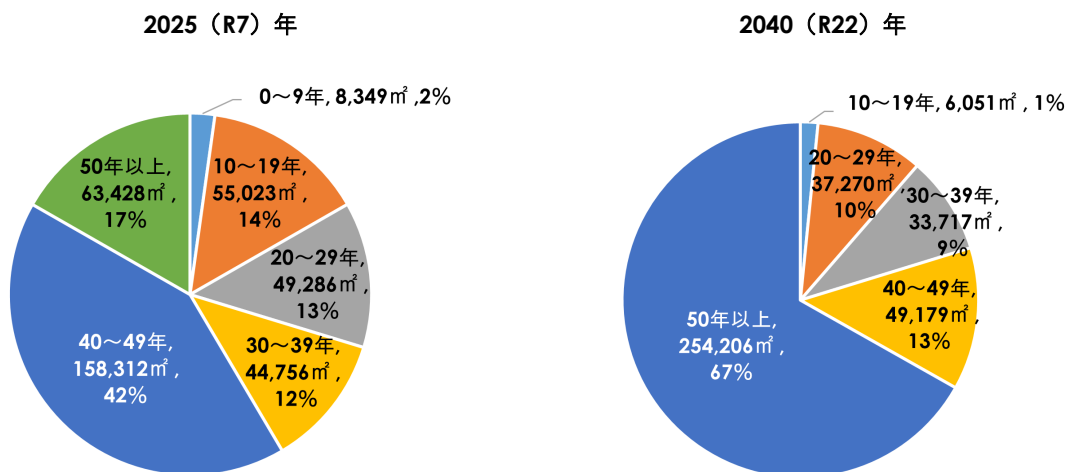
図表—30.12 五艘団地（附属学校園） 建設後50年を超える建物の割合



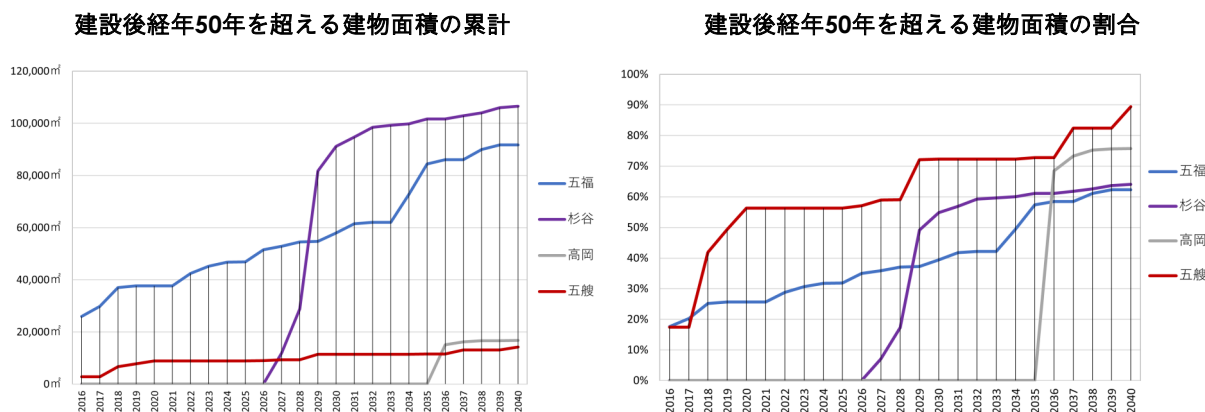
図表—30.13 寺町団地2040 建築後50年を超える建物



図表-30.14 建設後50年を超える建物の割合（全体）



図表-30.15 各キャンパス等において建設後50年を超える建物の割合が5割を超える年度とその面積の推移



### 老朽化の状況のまとめ

2025年において建設後経年50年を超えている建物の保有面積は55,775㎡（15.9%）、2040年では229,067㎡（65.2%）となり、再開発のフェーズに入っていく。

再開発の手法については、現キャンパスで再整備するか、他の整備手法による整備を行うかについて、段階的に検討しておく必要がある。その際、地域の都市計画等にも十分配慮し方向性を示すとともに、学内外に周知を図ることが重要である。

改築の指標に減価償却の年数を用いると、学校用途の建物の耐用年数は47年、病院用途の建物は39年となっているが、建設後経年50年を超える建物の保有割合及び面積の累計の推移を参考に再開発着手年度を決め、着工年度のおおよそ10年前には再開発計画案を学内外に提示して、再開発を進

めていく必要がある。

建設後経年50年を超える建物保有面積が、各キャンパス等の総保有面積の5割を超える年度とその割合を検証すると、

- 五福キャンパス：2035年に約8万4千㎡，57.4%
- 杉谷キャンパス：2030年に約9万1千㎡，54.8%
- 高岡キャンパス：2036年に約1万5千㎡，68.4%
- 五艘団地（附属学校園）：2020年に約8千9百㎡，56.3%

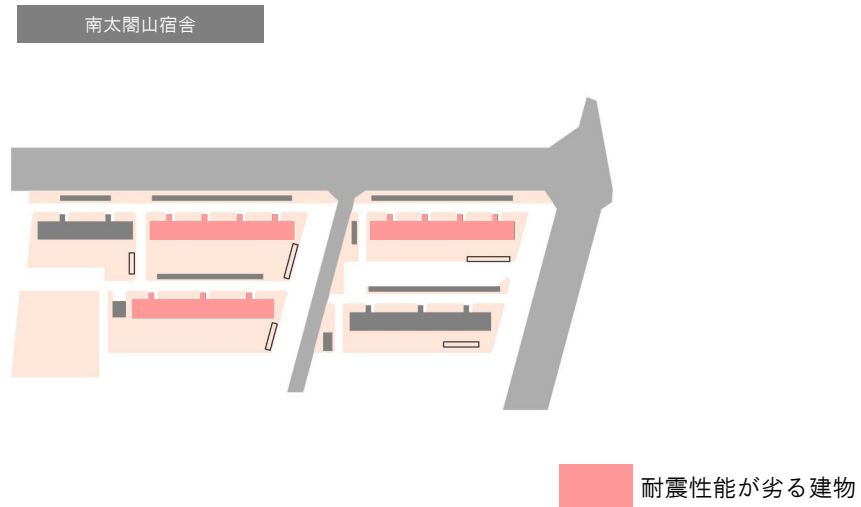
となっており、五福キャンパスを除いては、整備年度が集中していて急速に再開発のフェーズに移るため、長寿命化や長期使用を図り、改築が単年度に集中しないように平準化を図る必要がある。

## C.耐震性能の劣る施設等

point

- 未だ耐震性能の劣る建物（Is値0.7未満）は、3棟、約5,379㎡、保有面積の1.4%にあたる
- 耐震が劣る職員宿舎は、2026年度を目処に順次廃止することとしている。
- 教育・研究施設に関しては、耐震対策は整備完了

図表—30.16 職員宿舎等 耐震性能が劣る建物



図表—30.17 職員宿舎等 耐震性能が劣る建物名称と耐震性能の指標等

建物名称	建設年度	構造・階数	面積 (㎡)	Is値	$C_{TU} \cdot S_D$ 値	緊急度ランク
南太閤山宿舎1号	S54	R4	1,659	0.49	0.49	④
南太閤山宿舎2号	S54	R4	1,624	0.53	0.53	⑤
南太閤山宿舎3号	S55	R5	2,096	0.41	0.41	③

# 31

## 「キャンパスマスタープラン2020」の検証

point

- キャンパスマスタープラン2020に基づき施設整備を実施している。
- 引続き老朽施設の機能改善，ライフライン更新を推進していくことが重要。
- アクションプラン実施のための財源を継続的に確保していくことが求められる。
- 大学改革等に対応するため，更なる施設の有効活用への取り組みが必要。

### A.基本方針，B.キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡） （2020ver.Ⅱ.キャンパスの将来像）

図表-31.1 2015.Ⅱ 06.基本方針，07.キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡）の検証（①～②）

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>[2020ver.Ⅱ.06.基本方針，07.キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡）]</p> <p>の検証については，「*.部門別計画」の項目について，詳しく記載する。</p>	

point

### C.施設整備計画 D.施設マネジメントの推進（2020ver.Ⅲ.アクションプラン）

図表-31.2 施設整備計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題								
<p>施設整備計画については，Near-Termとしている2024（R6）年までの計画について，施設整備費補助事業，施設費交付事業，施設費貸付事業及び自己財源等の財源別に計画を策定する。</p>	<p>キャンパスマスタープラン アクションプランを毎年策定し，2019（H30・R1）年度にはアクションプラン2019～2023を策定した。</p> <p>キャンパスマスタープランに示された財源別の計画策定を行ったが，整備状況は十分ではない。</p> <p><b>【課題】</b> アクションプラン実施の予算が減少しており，計画的に施設整備を行うための多様な財源を含めた財源の確保が求められる。</p> <p>※アクションプラン予算額</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>2021（R3）年度</td> <td style="text-align: right;">約1.5億円</td> </tr> <tr> <td>2022（R4）年度</td> <td style="text-align: right;">約1.5億円</td> </tr> <tr> <td>2023（R5）年度</td> <td style="text-align: right;">約0.9億円</td> </tr> <tr> <td>2024（R6）年度</td> <td style="text-align: right;">約1.0億円</td> </tr> </table> <p>（参考：2013（H25）年度 約2.8億円）</p>	2021（R3）年度	約1.5億円	2022（R4）年度	約1.5億円	2023（R5）年度	約0.9億円	2024（R6）年度	約1.0億円
2021（R3）年度	約1.5億円								
2022（R4）年度	約1.5億円								
2023（R5）年度	約0.9億円								
2024（R6）年度	約1.0億円								

point

## D. 施設マネジメントの推進（2020ver.Ⅲ.アクションプラン）

図表—31.3 施設マネジメントの推進の検証/課題

「キャンパスマスタープラン2020」	検証/課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>・施設マネジメントの推進 施設マネジメントは、法人化以降、特に取組の推進を求められており、施設整備費補助金の概算要求においても、大学の取組を評価項目として採用している。</p> <p>本学においては、学長のリーダーシップの下「施設マネジメント委員会」を中心に全学体制で取り組んでおり、実施に当たっては、PDCAサイクルを強化し、取組を継続的に改善していくものとする。</p>	<p>国立大学法人運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分額」の配分指標「施設マネジメント改革の推進状況」において、2024（R6）年度は28大学中3位の評価を得て再配分率120%となった。</p> <p>※施設マネジメントを推進し高い評価を得たが、引き続き大学改革等に対応するため施設の有効活用に取り組む必要がある。</p> <p>【課題】 長寿命化をさらに推進するためには、施設整備型から運営計画型への移行が求められる。</p>
<p>・クオリティマネジメント 施設利用者の要望に配慮しつつ、安全と教育研究等の活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図ることが必要であり、次のような視点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□教育研究診療活動に必要な施設機能の確保と最適化</li> <li>□施設の安全確保と信頼性の向上</li> <li>□環境への配慮と美しいキャンパスづくり</li> </ul>	<p>2008（H20）年から附属病院再整備事業を開始し、診療機能の充実と病院アメニティーの改善を実施中である。</p> <p>また、法令に準拠した安全・安心な教育研究環境の維持のため、杉谷キャンパスの廃水処理施設を2024（R6）年度に改修整備したところである。</p> <p>【課題】 「富山大学附属病院公的医療機関2025プラン」に向けた特定機能病院である高度医療を提供する当院の目指す機能・役割に対応するためにICU、ECU及びHCUをはじめとする再整備事業の推進が求められる。</p>
<p>・スペースマネジメント 全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて適切に配分するとともに、不足する場合には新増築等の施設の確保を行い、有効に活用することが必要であり、次のような視点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□スペース配分の最適化</li> <li>□施設の有効活用の徹底</li> <li>□費用負担制度の継続と拡充</li> </ul>	<p>令和5年度に施設利用状況調査に基づく立入調査を五福キャンパス及び杉谷キャンパスで実施し、令和6年度には実施要項の改定及び実施要領を策定したうえで、計画表に従い立入調査を実施した。施設の有効活用に関し、改善が図られない場合には学長から改善勧告を行い、実行性を向上させた。</p> <p>スペースマネジメントへの取組は、概ね達成された。</p> <p>【課題】 学部及び大学院の再編等に伴う使用面積の再配分への取組が求められる。</p> <p>「全学共有スペース」の運用・配分方法の仕組み・プロセスに関する認識の共有。</p>

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>・コストマネジメント クオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の視点から、費用対効果の向上、資産の維持を図ることが必要であり、次のような視点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□資産活用の効率化・最適化</li> <li>□施設に係るトータルコストの縮減</li> <li>□予算の平準化と財源の確保</li> <li>□負の資産の解消</li> </ul>	<p>2016（H28）年3月に「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」を策定し、2017（H29）年3月同計画に基づく「富山大学施設長寿命化計画（個別施設計画）」を策定し、施設の健全性確保のための仕組み作りを行っている。</p> <p>新たな整備手法として、軽金属材料共同研究棟は、産学連携推進事業補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）及び地方公共団体（富山県、高岡市）からの補助金による整備を行った。</p> <p>【課題】 2017（H29）年3月に策定した個別施設計画を推進する中で財源確保が厳しい状況を踏まえてトータルコスト低減と平準化への取り組みが求められる。</p>
<p>・環境マネジメントの推進 富山大学環境宣言に基づき、環境理念及び環境方針の視点から、環境マネジメントを一層推進していく。</p> <p>環境配慮活動年度計画の策定時に考慮すべき活動の基本として環境方針に掲げる4つの事項を15の活動項目に分類し、さらに30の活動事項に展開し、「富山大学環境配慮活動年度計画」を定めて運用する。</p>	<p>富山大学環境宣言の環境理念及び環境方針に則り、「富山大学環境配慮活動年度計画」を毎年度、作成し、部局に展開し、全学的な活動として推進している。</p> <p>環境安全推進員連絡会、環境内部監査、第三者意見、環境マネジメント部会及び環境安全衛生マネジメント委員会等の一連の環境安全衛生マネジメントシステムを機能させて環境配慮活動を進めることにより、環境マネジメントの全学的な展開と目標が概ね達成できた。</p> <p>【課題】 環境配慮活動年度計画において、具体的な数値目標を掲げ、成果を定量的には発信することが挙げられる。</p>

## E.省エネルギーの推進

図表-31.4 省エネルギーの推進の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	point 検証／課題
<p>PDCA サイクルにより省エネルギーをより効果的に推進するためエネルギーマネジメントの下「省エネ化 4つの STEP」を提案し、より強かに推進していくことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030 年度までに CO<sub>2</sub> 排出量 46%削減 (2013 年度比)</li> <li>・ 2050 年度までにカーボンゼロ達成を目指す。</li> </ul>	<p>STEP1「エネルギー使用実態の見える化」においては、建物利用者の省エネ活動の成果が見えやすい、電気とGHP設置建物のガス使用量を、建物毎に毎月ホームページに掲載し、夏季・冬季の空調負荷の大きな期間は、重点期間として毎週掲載し、省エネ意識の啓蒙を図っている。</p> <p>STEP2「運用改善による省エネ」においては、空調温度の適正管理、待機・常用電力の削減等について具体的事項を示し、重点期間には、室温測定、実施状況の確認を行っている。</p> <p>STEP3「設備改善による省エネ」においては、LED照明への交換を順次進めており、令和9年上半期までに全ての建物の照明をLED化することを計画している。</p> <p>杉谷キャンパスでは附属病院の医療体制及び医学部等の教育研究体制の充実・高度化を重点的に推し進めてきたことを背景に、キャンパス内のエネルギー使用量が増加傾向を示していた。2009(H21)年に附属病院ESCO事業の実施を決定し、3年間省エネルギー対策の推進及び光熱水費の削減を図った。杉谷キャンパスでは、2018(H30)年度より運用期間を12年間としたESCO事業を開始し、2014(H26)-2015(H27)年度の平均値より、2023(R5)年度では24%、エネルギー使用量を削減した。</p> <p>STEP4「改築・改修するなら、省エネ化建築物へ」においては、高効率省エネ化機器導入、断熱等の工夫を行っている。</p> <p>省エネルギーの推進は概ね達成した。</p> <p><b>【課題】</b> 夜間、休日においても消費される電力の削減の検討が必要である。</p>

## F.土地利用, G.ゾーニング計画 (2020.ver IV.部門別計画)

図表-31.5 土地利用, ゾーニング計画の検証 (①~②)

「キャンパスマスタープラン2020」	検証/課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①土地利用                      経営的視点に立って, 保有施設量の最適化をめざし, 選択と集中を進める。</p>	<p>五福キャンパスにおける入構管理について、2021 (R3) 年度の施設マネジメント委員会にて, 入構管理ゲート導入が決定されているが, 実施には至っていない。                      杉谷キャンパスは, 駐車場の有料化を実施している。廃水処理施設の規模縮小化に合わせ患者駐車場へ転用し, 整備した。                      ※土地利用については, 検討継続中の計画が多い。</p> <p><b>【課題】</b>                      各キャンパスで重複する体育施設等について, 施設有効活用の観点から, キャンパス間の共同利用や近隣施設 (五福公園陸上競技場及び県営球場) の利用について授業, 課外活動及び防災の観点も踏まえ検討を進める必要がある。</p>
<p>②ゾーニング計画                      各キャンパスのゾーニングについては, 将来の敷地利用計画に配慮したサステナブルなキャンパスとする。</p>	<p>概ねキャンパスマスタープランに示すゾーニングに沿って整備を実施している。</p> <p><b>【課題】</b>                      五福キャンパス体育施設と近隣施設 (五福陸上競技場及び県営富山野球場) の相互利用に関しては, 授業, 課外活動及び防災の観点も踏まえ検討を進める必要があり, 県と協議していく。                      過去には, 災害発生時における避難等防災面と学生の授業・課外活動利用時の利便性・安全性を目的に境界フェンスへの出入口設置について県と協議したが, 県からは防災的利用 (常時閉) であれば問題ないが, 大学のみ利便性, 駐車目的等による公園通過であればお断りするという回答だった。</p> <p>各キャンパスで重複する体育施設等について, 施設有効活用の観点から, キャンパス間の共同利用についての検討する。</p>

## H. ランドスケープ計画

図表-31.6 ランドスケープ計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>個性的で魅力あるキャンパス景観は、豊かなランドスケープの上に成立する。</p> <p>快適な屋外環境は、良質な施設が快適な屋外環境と一体となることによって形成される。「夢があり、個性がきらめくキャンパス」を継承していくため、ランドスケープを構成する重要な要素を取り入れながら、全体が調和したキャンパス計画とする。</p>	<p>杉谷キャンパスは、附属病院再整備を進めており、災害救命センター及び第一種感染症病床増築並びにMRI棟新営において既存建物との外観に調和した整備を実施している。また、教育研究施設では、生命科学先端研究支援ユニット(動物実験施設)、総合研究棟(和漢医薬学系)、国際交流会館、薬用植物園及び総合研究棟(医学系)において改修時に既存建物との外観に調和した整備を実施している。</p> <p>※ランドスケープに配慮した整備が行われた。</p> <p>【課題】 杉谷キャンパスの未改修建物において色調を屋外環境と一体となる整備が必要である。</p>

## I. オープンスペース, J. パブリックスペース計画

図表-31.7 オープンスペース, パブリックスペース計画の検証 (①~②)

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>① オープンスペース計画 オープンスペースは、キャンパスに必要とされる「コミュニケーションが発揮される場」である。</p> <p>オープンスペースは、キャンパスの印象を決定づけるとともに、秩序と規制を与える役割を果たす。</p>	<p>高岡キャンパスでは、芸術文化図書館整備時にアクティブラーニングゾーン(開放的なゾーン)や展示ギャラリーの機能を充実し、地域に開かれた共創空間の創出を図った。</p> <p>【課題】 引き続きキャンパスに必要とされる「コミュニケーションが発揮される場」の創出が求められる。</p>
<p>② パブリックスペース計画 パブリックスペースは、交流を活性化し、地域のオープンスペースとしての役割を担っている。</p> <p>安全で市民の空間として開放できるスペースをキャンパス内に設定する。</p>	<p>高岡キャンパスでは、芸術文化図書館整備時にアクティブラーニングゾーン(開放的なゾーン)や展示ギャラリーの機能を充実し、地域に開かれた共創空間の創出を図った。</p> <p>また、体育館は地域の第3次避難場所に設定されており、解放できるスペースとしている。</p> <p>※交流を活性化させるスペース等の整備は進んでいない。</p> <p>【課題】 将来像を見据えた交流を活性化させるパブリックスペースの創出が求められる。</p>

## K. 交通、動線計画

図表-31.8 交通、動線計画の検証（①～④）

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①キャンパスの入り口までの交通計画            キャンパス計画は、車から人へのサービスに復古してきている。            通学環境の改善・整備に向け、自治体等と連携していく。            公共交通機関の積極的利用を図り、地球環境とキャンパス環境にやさしい「車から人へのキャンパスづくり」の推進を提案する。</p>	<p>杉谷キャンパスでは、公共交通機関がバスだけとなっており、便数も少ないため車利用が主となっている。  <b>【課題】</b>            杉谷キャンパスでは、積雪時に構内道路に渋滞が発生し、近隣住民に迷惑をかけているため、適切な除雪対策が必要と思われる。</p>
<p>②駐車場計画            五福キャンパス及び杉谷キャンパスでは、建て詰まり現象が顕著であり、キャンパスの将来性を考慮した場合、危機的な状況にあるが、未だ駐車スペース拡充の要望が多い。このため、土地利用の効率化を図るため立体駐車場等を集約して整備し、空地（オープンスペース）を拡充していく。</p>	<p>五福キャンパスにおける入構管理について検討中である。            杉谷キャンパスは、患者さんの利便性を向上させる目的で既設の立体駐車場に隣接して患者用平面駐車場整備を行った。  <b>【課題】</b>            五福キャンパスにおける入構管理対策において財源確保が求められる。            杉谷キャンパスでは、積雪時に駐車場の確保が難しいため、適切な除雪対策が必要と思われる。</p>
<p>③駐輪計画            五福キャンパスでは、軸線に沿って雑然と駐輪されており、キャンパスの空間質を貧しくしている。このため、キャンパスの周縁部分に集約してスペースを設ける。</p>	<p>五福キャンパスにおいて、キャンパス周縁部分に集約した駐輪場の整備は進んでいない。  <b>【課題】</b>            杉谷キャンパスにおいても既存駐輪場の改修計画が求められる。</p>

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>④動線計画 歩行者及び附属病院の利用者等に安全で、優しく、わかりやすい動線となるように配慮する。</p>	<p>病院再整備事業の進捗に合わせてサイン等を含めた整備を行っている。</p> <p>【課題】 引き続き「車から人へのキャンパスづくり」の観点から、歩車分離した動線計画が求められる。</p>

## L. デザインガイドライン計画

図表-31.9 デザインガイドライン計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>個性的で魅力あるキャンパス環境の確保のため、建物、空間、エスクテリア及びストリートファニチャー等について、デザインの統一と調和を目的とした「デザインガイドライン」を今後策定する。</p>	<p>「デザインガイドライン」は未策定である。</p> <p>【課題】 「デザインガイドライン」の策定。必要に応じ専門家の知見を求めつつ、検討を進めることが必要。</p>

## M. サイン、アート計画

図表-31.10 サイン、アート計画の検証 (①~②)

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①サイン計画 2013 (H25) 年度に策定した「富山大学サイン計画」に基づき整備を推進するとともに、利用者の安全確保に配慮する。</p>	<p>「富山大学サイン計画」に基づき、各キャンパスでの整備及び病院再整備事業を進めている。</p> <p>【課題】 All Gender等新たなニーズに対応したサイン計画。</p>
<p>②アート計画 アートは、空間を豊かにし、空間のアイデンティティを強く創出することにつながる。 アートを設置する場合は、空間や建物のイメージを壊すことのないように配慮し、良好な状態で維持していく。</p>	<p>アート計画は特に進んでいない。</p> <p>【課題】 引き続きアート設置スペースの創出、空間利用の工夫が求められる。</p>

## N. ユニバーサルデザイン計画

図表-31.11 ユニバーサルデザイン計画の検証（①～③）

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①ユニバーサルデザイン化の推進 多様な人々がキャンパスを利用する機会が増えていることから、利用者の日常的な行動に対する安全性を確保し、円滑に利用できる環境づくりに取り組む。</p>	<p>多目的トイレを五福キャンパスでは機械系実験研究棟、杉谷キャンパスでは薬用植物園研究棟に設置した。</p> <p>【課題】 引き続き、未改修建物内部のユニバーサルデザイン化が求められる。</p>
<p>②バリアフリー化の推進 利用者の動線や建築物の利用形態を踏まえ、障害の種類による安全性、利便性等に配慮して整備を行う。</p>	<p>大規模改修に合わせてバリアフリー化を進めているが、歩道や建物内の段差、エレベーターや自動ドアの未整備、及びインターホンやカードリーダーの設置位置・高さ等依然として車椅子ユーザーの対応に不十分な箇所が認められる。</p> <p>※大規模改修に合わせ計画に沿って整備を進めたが、未改修建物については整備が進んでいない。</p> <p>【課題】 大規模改修以外の施設周辺及び内部のバリアフリー化が求められる。</p>
<p>③アクセシビリティの向上 利用者が支障なくアクセスできる方法を多角的な視点で検討しアクセシビリティの向上を推進する。</p>	<p>立体駐車場に隣接して患者用平面駐車場整備したことで、外来診療棟へのアクセシビリティが向上した。</p> <p>薬学部研究棟南側職員用駐車場に歩廊を整備し、アクセシビリティが向上した。</p> <p>【課題】 引き続き高齢者や障害者なども含めたあらゆる人のアクセシビリティ向上が求められる。</p> <p>また、近年における災害級の大雪状況を踏まえたアクセシビリティ向上が求められる。</p>

## 〇. グローバル化・イノベーション創出空間計画

図表-31.12 グローバル化・イノベーション創出空間計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>「国立大学改革プラン」等に基づく機能強化や地域社会との連携等を一層進め、本学の強み・特色を最大限活かし、グローバル化、イノベーション創出や人材養成機能の機能強化を活性化させる役割を果たす空間造りを行う。</p>	<p>2022（R4）年度に都市デザイン学部データサイエンス研究棟にて、BELS認証申請を目的とした整備（ZEB改修）を実施した。</p> <p>医学部では、ライフイノベーション創出型研究に対応可能な全学共同利用施設として研究室等として、教育研究のさらなる活性化に貢献している。また、富山県等との連携に大きく貢献する空間を提供した。</p> <p>さらに医学部50周年事業として、シミュレーションセンターの設置を計画している。</p> <p>※ラーニングコモンズの整備を実施したが、交流空間、オープンラボ等の設置は進んでいない。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>引き続き国の方針及び大学の理念と目標等に基づく機能強化や地域社会との連携等を一層進め、本学の強み、特色を最大限活かし、グローバル化、イノベーション創出が求められる。</p>

## P. 災害と安全性を考慮したキャンパス計画

図表-31.13 災害と安全性を考慮したキャンパス計画の検証（①～⑥）

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①地震災害 建築物，基幹設備（ライフライン）等，計画的に耐震化を進めるとともに，液状化対策等を着実に進める。</p>	<p>計画的に建築物耐震化を完了し，基幹設備（ライフライン）を計画的に進めている。 2024年度現在，富山大学事業継続計画（BCP）を策定しており，本部と各部局の非常時優先業務をまとめている。 附属病院では，災害救命センター増築、MRI棟新営、及び今後の再整備事業を踏まえ、自家発電機の容量アップを検討している。 建物の耐震化を完了し，最も脆弱で対策が必須のガス管を始めとして基幹整備（ライフライン）の耐震化を計画的に進めた。 【課題】 引き続きライフライン再生計画による耐震化を着実に進めることが求められる。 防災訓練等を通してBCPの実効性を高めるとともに，継続的な改善を図る。</p>
<p>②洪水災害 自治体が策定している「洪水ハザードマップ」により対策を講ずる。</p>	<p>五福キャンパス及び五艘団地は，富山市より洪水ハザードマップ見直しによる指定緊急避難場所の協力依頼があり，避難場所を指定した。 杉谷キャンパスは，富山市「洪水ハザードマップ」における対象エリアではないが近隣地区が該当しているため，避難場所としての検討を進めている。 【課題】 洪水ハザードマップ見直しへの対策を検討することが求められる。</p>
<p>③火災 避難能力の格差等を考慮し，安全に避難できるよう，設計時に十分に検証を行う。</p>	<p>各キャンパスは毎年1回の消防査察において検証を行い，全キャンパス一斉の防災訓練を実施している。 【課題】 引き続き既存施設の避難表示等の検証が求められる。</p>

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>⑤防犯対策            キャンパス内の視認性を高め、ICカードによるセキュリティシステムの導入等、将来性を考慮した計画を策定し、対策を進める。</p>	<p>附属病院はICカードによるセキュリティシステムを導入している。</p> <p>【課題】            現在計画している入退管理システムは、小改修工事があることで改修費用がかさんでいる。ランニングコストの安価で適正なセキュリティ・能力をもつシステム・監視カメラの設置の導入を検討する必要がある。</p>
<p>⑥安全衛生            教育研究活動において教職員、学生を含む全構成員の安全を確保するとの考えで安全衛生管理活動を進める。</p>	<p>労働安全衛生法に基づき設置した五つの事業場毎に安全衛生管理計画を立て、事業場単位で、安全管理活動を推進している。</p> <p>安全衛生部会では、安全衛生管理に関する全学的な方針を定め、各事業場に展開し、作業環境管理、作業管理などの是正・改善を進め、大学全体の安全衛生の水準の向上を図り、教職員、学生の安全衛生を確保した。また、環境安全衛生マネジメント委員会を通して、安全衛生部会と化学物質管理部会及び環境マネジメント部会に共通する安全衛生の課題を把握し、相互の連携を図り活動を推進できた。</p> <p>【課題】            事業場や部局を横断する問題や共通する問題を解決するための協力体制の強化と関係する担当者のスキルアップが挙げられる。</p>

## Q. 環境, サステナビリティ計画

図表-31.14 環境, サステナビリティ計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証/課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>キャンパスマスタープランにおける, 環境, サステナビリティとは, 「キャンパスが将来にわたって快適な状態で維持していくための取組」として定義し, 特に温室効果ガスの総排出量の削減や抑制への取組を率先して行う。</p> <p>具体的な数値目標等については, 今後, カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現を目指し, 政府が策定予定のエネルギー基本計画等による。</p>	<p>地球環境に配慮した教育研究環境の実現のため, 環境負荷低減の啓発活動推進及び設備機器のエコ改修等を推進した結果, 「省エネルギー中長期計画書」の目標に掲げる, 2015 (H27) 年度の使用量を基準量として, 2016 (H28) 年度から2020 (R2) 年度までの5年間にエネルギー原単位で5%以上の削減を上回る12.5%を達成した。最も大きく寄与したものは, LED照明の更新等をはじめとする対策によるもので, 年平均では3.1%の削減となり, 省エネ法で定める年1%以上の削減目標も達成し, 本学の構成員一丸となって取り組んできた成果が発揮されている。</p> <p>環境負荷低減啓発の一環として「省エネルギー活動」における取組等をホームページに掲載し, 教職員に協力を依頼した。</p> <p>2018 (H30) 年より12年間の運用期間を持ってESCO運用を開始している。</p> <p>ZEB化実証事業として, 大学院実験研究棟7階及び電子情報系実験研究棟5階の空調機更新, EMS (エネルギーマネジメントシステム) 等の整備を行った。</p> <p>※計画は概ね実施された。</p> <p><b>【課題】</b> ESCO事業を踏まえた省エネルギー計画の推進が求められる。</p>

## R. キャンパス資源の活用計画

図表-31.15 キャンパス資源の活用計画の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証/課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>キャンパス空間の個性や大学らしさを醸し出す普遍性の高い要素がある建物, 建造物を整理し, 豊かなキャンパス空間の有用資源としてブランド力や魅力の向上に活用していくことを提案する。</p>	<p>五福キャンパスは, 都市デザイン学部研究棟, 機械系実験研究棟の整備を行った。</p> <p>杉谷キャンパスは, 附属病院厨房棟, 外来トリアージ棟の整備を行った。</p> <p>※既存の風景を活用し, 既存空間と一体感を感じる整備を実施した。</p> <p><b>【課題】</b> ポケットパーク等を設け, 魅力ある外部空間への再生していく。</p>

## S. 基幹設備（ライフライン）計画

図表-31.16 基幹設備（ライフライン）計画の検証（①～④）

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>①基幹設備の更新計画について 維持管理計画及び更新計画を策定し、適切な状態を保つとともに、計画的に更新を行う。</p>	<p>富山大学は2016（H28）年3月に「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」、引き続き2017（H29）年3月に（個別施設計画）を策定し、個別施設ごとの「ライフライン再生計画」を進めている。</p> <p>【課題】 引き続き財源の確保が求められる。</p>
<p>②空調システムの変更 中央熱源方式による供給を行ってきているが、設置後の経年により機器や配管に老朽化がみられる。また、冷房化のため個別に空調機器を設置し、非効率なエネルギー供給となっている。 このため、附属病院を除き、中央熱源方式は廃止して個別化に切り替えていく。</p>	<p>主要3キャンパスの主要建物毎に電気及びガス使用量を毎月公表し、夏季・冬季は電気使用量を毎週公表している。 杉谷キャンパスでは、附属病院を除く各建物は改修時に中央熱源方式から個別空調方式に変更を進めている。 ※計画は概ね実施された。</p> <p>【課題】 引き続き財源の確保が求められる。</p>
<p>③計量システムの導入 光熱水の使用抑制や受益者負担等を進めるため、計量システムの導入を計画的に進める。</p>	<p>各キャンパスは、大規模改修整備の中で進める。 一部のレンタルスペースに電気メーターを設置し、消費電力の見える化を図っている。</p> <p>【課題】 多様な財源などを確保した施設整備が求められる。</p>
<p>④その他 災害対策の推進及び地球環境問題に配慮した計画とする。</p>	<p>杉谷キャンパスは、附属病院事業継続（BCP）に向けた訓練を進めており、必要な対策について検討している。</p> <p>【課題】 引き続き事業継続計画の推進が求められる。また、新たな水井戸を開発することにより、そこから得られる上水、中水の確保の検討が求められる。</p>

## T. 施設長寿命化計画（総合管理計画）

図表-31.17 施設長寿命化計画（総合管理計画）の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>現下の厳しい財政状況の下、老朽化した未改修施設（約124千㎡）全てを従来の改築の手法で対応していくことは困難であることから、下記方針と方策に基づいた老朽化対策（施設長寿命化計画）の立案を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ URL戦略の下、施設マネジメントを徹底</li> <li>・ 改築（事後保全）から長寿命化（予防保全）へ転換</li> <li>・ 維持修繕に係る経費（トータルコスト）の縮減と予算の平準化</li> <li>・ メンテナンスサイクルの構築</li> <li>・ クオリティ・スペース・コストの最適化</li> </ul>	<p>URE戦略の一環として「健全で持続可能な大学経営の実現」を施設マネジメント面から実現することを目的に、施設における安全・安心と高い信頼性を確保し、効率的かつ持続的に維持運用していくための行動計画に当たる計画「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」を2015（H27）年度に策定し、大学のホームページに学内限定で公表している。</p> <p>また、「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」に基づき個別施設毎の長寿命化計画にあたる「富山大学長寿命化計画（個別施設計画）」を2016（H28）年度に策定した。</p> <p>現在は、策定した個別施設計画の改修サイクルをさらに延ばす検討を始めた。</p> <p>※計画は策定済みであるが、継続的にブラッシュアップする必要がある。</p> <p><b>【課題】</b> 引き続き個別施設計画のトータルコストの縮減と予算の平準化が求められる。</p>

## U. キャンパス整備の課題

図表-31.18 キャンパス整備の課題の検証

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題 <span style="float: right;">point</span>
<p>・老朽化した施設の改善策            附属学校園を含め、全体の半分程度残っている老朽建物の解消について、文部科学省に概算要求を行い改善を図る。</p>	<p>2016（H28）年3月に「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」、引き続き2017（H29）年3月に（個別施設計画）を策定し、個別施設ごとの「施設再生型リノベーション（長寿命化）計画」及び「ライフライン再生計画」を進めている。</p> <p>施設長寿命化計画（個別施設計画）により進める。</p> <p>工学部地区は、経年41年となっており、令和5年度に機械系実験研究棟の整備を開始した。</p> <p>高岡キャンパスの芸術文化学部は経年39年となり、再整備について検討を始めた。</p> <p>【課題】            多様な財源を確保し着実な実施が求められる。</p>
<p>・緑地保全策            五福キャンパスのゆりの木通りの歩行者動線等を踏まえた、樹木の保護維持管理計画の検討を進め改善を図る。</p>	<p>杉谷キャンパスは、敷地の周辺が埋蔵文化財包蔵地となっており、遊歩道などの定期的な維持管理を行っている。</p> <p>【課題】            財源確保が求められる。</p>
<p>・駐車場及び駐輪場等の確保策と維持管理策            駐車場について、五福キャンパスでは、駐車場のゲート化、有料化、杉谷キャンパスでは、患者用駐車場整備等の計画の検討を進め改善を図る。駐輪場については、各キャンパス構内における敷地利用の再検討を進め改善を図る。</p>	<p>五福キャンパスにおける入構管理について検討中である。</p> <p>杉谷キャンパスは、駐車場のゲート化、有料化は整備されており、附属病院の利便性向上に向け、既存の立体駐車場に隣接して患者用平面駐車場を整備した。</p> <p>【課題】            五福キャンパスの入構管理実施後の駐車状況を確認し、必要であればグラウンド2等における駐車場整備について検討を行う必要がある。</p>
<p>・ユニバーサルデザイン計画            建物内部のユニバーサルデザイン化の検討を進め改善を図る。            また、大規模改修を伴わなかった施設の建物周辺及び内部のバリアフリー化の検討を進め改善を図る。</p>	<p>大規模改修に合わせて進めている。</p> <p>【課題】            財源の確保が求められる。</p>

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>・福利・国際交流施設 留学生宿舎や国際交流施設等といった整備構想の実現のため民間事業者と連携して実施するPPP事業等の多様な手法による検討を図る。</p>	<p>廃止宿舎における土地活用の検討スケジュールについて、2024（R6）年度の施設マネジメント委員会にて了承された。留学生宿舎や国際交流施設等といった整備構想の候補地として挙がることも想定される。</p> <p>【課題】 候補地及び整備手法の選定がある。</p>
<p>・サイン、アート計画 サイン計画は、駐車・駐輪スペース、各建物内部のサインについて、「富山大学サイン計画」に基づき整備を推進する。 また、アートを設置するスペースの創出、空間利用の手法の検討を進める。</p>	<p>大規模改修に合わせて進めている。</p> <p>【課題】 未改修建物内部のサイン整備が求められる。</p>
<p>・高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠なスペースの確保について 教育研究活動の活性化や高度化、多様化に伴い必要となるスペースや、文部科学省が補助金交付の基礎としている基準面積を下回り、狭隘化している施設及び部局への整備については、施設整備型から運営計画型の施設マネジメントへの移行を推進し、大学経営の効率化の観点から大学改革の動向に備えた施設利用の柔軟性確保（面積の再配分の道筋）や既存ストックの有効活用を徹底したスペースマネジメントを推進し、保有すべき面積の最適化（身の丈に合った保有量の確保と健全化）を進めて必要なスペースの確保を図る。</p>	<p>R5年度に経産省補助金等により、アルミニウムをさらに社会に役立てるための総合研究センターとして、軽金属材料共同研究棟が開所した。共同研究の活性化や多様化のため、レンタルスペースを確保し、大学経営の観点や施設利用の柔軟性確保を推進した。</p> <p>【課題】 保有すべき面積の最適化（身の丈に合った保有量の確保と健全化）を検証していく必要がある。</p> <p>H30年度に教養教育院一元化が行われ、研究室の継続利用を踏襲している一方で、R6年度には教員退職後に伴う研究室等の取り扱いに関する問題が顕著になり、今後のスペースに関する方針を定める必要がある。</p>
<p>・国立大学改革方針とキャンパスの整備 大学改革の推進のための様々な取組について、必要なキャンパス整備を進め、改革推進の相乗効果が得られるように支援していく必要がある。</p>	<p>大学改革への対応としては、2018（H30）年度の教養教育の一元化及び都市デザイン学部設置に伴う教育研究スペースの不足を解消するため、講義室等を共用化した。</p> <p>【課題】 今後予定されている教養教育一元化拡充及び大学院改革、共同教員養成課程への対応をしていく必要がある。</p>

「キャンパスマスタープラン2020」	検証／課題
<p>・施設管理に関する問題 施設管理の財源に関する問題等について、引き続き解決していく必要がある。</p>	<p>杉谷キャンパスの改修建物については、施設管理にかかる費用削減を実施している。 ※施設の機能改善整備，基幹設備（ライフライン）の更新，大学改革推進への取組を進める必要がある。 富山大学は2016（H28）年3月に「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」，引き続き2017（H29）年3月に（個別施設計画）を策定し，個別施設ごとの「施設再生型リノベーション（長寿命化）計画」を進めている。</p>
<p>・基幹整備（ライフライン）に関する課題 基幹整備の老朽化が進行しており，事故の発生を抑制しリスクを回避するため，定期点検や予防保全を実施し，機能不全となる前に計画的に更新していくことが極めて重要である。 また，トップランナー方式と呼ばれる温暖化ガス抑制効果の高い機器の採用や，再生エネルギーの採用及び災害に強いシステムや材料を選定して，クリーンで安定的な供給を行う必要がある。</p>	<p>富山大学は2016（H28）年3月に「富山大学施設長寿命化計画（総合管理計画）」，引き続き2017（H29）年3月に（個別施設計画）を策定し，個別施設ごとの「ライフライン再生計画」を進めている。</p> <p>【課題】 多様な財源を確保し着実な実施が求められる。</p>
<p>・都市計画による規制 五福キャンパスは，富山市高度地区指定により，高さ20mを超える建物は新たに建設できない。 また，杉谷キャンパス及び寺町団地は市街化調整区域であり，大学及び病院の用途の建物については，一定の制限がされている。</p>	<p>杉谷キャンパスは市街化調整区域であり，富山市との慎重な協議が必要である。</p>

# 32 第2次・第3次・第4次及び第5次国立大学等 施設整備5か年計画における整備建物等

point

## 検証

- 施設整備費補助金による老朽再生整備が約77,012㎡、狹隘解消整備が約26,709㎡、平成27年度より基幹整備が行われた。
- 施設費貸付事業による整備  
附属病院の基幹整備と病棟56,739㎡の整備が行われた。
- 施設費交付事業による整備  
改修等の整備が行われた。
- 自己資金等による整備  
約23,450㎡の増築と改修整備が行われた。

## 課題

- ライフラインの老朽化が進行しているため、再生計画を策定し実施していくことが必要。
- 持続可能な社会の実現に向けた、サステナブルキャンパスに転換していくことが必要。
- キャンパス全体を「イノベーション・commons（共創拠点）」へと転換していくための空間整備等が挙げられる。

図表-32.1 施設整備費補助金による整備事業一覧（平成17年度補正～令和6年度）

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等	面積（㎡）
老朽再生（耐震）整備	平成17年度補正	（五福）第2体育館	1,373
	平成18年度補正	（五福）人間発達科学部第1・2校舎	7,350
		（五艘）附属中学校体育館	700
		（五福）ボイラー室	360
		（五福）食堂	1,630
	平成19年度補正	（五福）保健管理センター	1,170
		（五福）経済学部演習棟	2,320
		（五福）経済学部講義棟	1,060
	平成20年度補正（1次）	（五福）共通教育棟D棟	770
		（五福）中央図書館	4,513
		（五福）共通教育棟A棟	3,078
		（五福）共通教育棟C棟	1,454
		（寺町）男子1号棟	1,832
	平成20年度補正（1次）	（寺町）男子2号棟	1,076
		（寺町）男子3号棟	1,204
平成20年度補正（1次）	（寺町）女子棟	1,328	
平成21年度補正（1次）	（五福）水素同位体科学研究センター	2,365	
	（五福）学生会館	1,812	

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等	面積 (㎡)
老朽再生(耐震)整備	平成24年度当初	(杉谷) 生命科学先端研究センター動物棟改修	1,800
		(杉谷) 総合研究棟(旧薬学部研究棟)改修	6,098
	平成24年度予備費	(五福) 総合研究棟(旧人間発達大3校舎)改修	2,528
		(五福) 共通教育棟(E棟)改修	1,920
	平成24年度補正(1次)	(五福) 総合情報基盤センター改修	950
		(五福) 大学食堂改修	1,646
		(杉谷) 図書館改修	2,656
	平成25年度当初	(杉谷) 福利棟等改修	1,438
		(杉谷) 総合研究棟(医学系)改修	13,951
	平成25年度補正(1次)	(五福) 人間発達科学部音楽棟改修	776
		(杉谷) 厚生棟等改修	992
		(杉谷) 講義実習棟改修	6,980
	令和2年度補正	(杉谷) 総合研究棟(医学系)改修	2,600
	令和3年度補正	(杉谷) 総合研究棟(和漢医薬学系)改修	2,500
		(杉谷) 生命科学先端研究支援ユニット	1,220
		(高岡) F棟改修	1,070
		(五艘) 教育学部附属幼稚園舎改修	970
	令和4年度補正	(五福) 総合研究棟(工学系)改修	2,760
(杉谷) 薬用植物研究施設改修		860	
令和5年度補正	(杉谷) 解剖棟改修	940	
計			77,012

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等
長寿命化促進事業	令和3年度	(五福) 人文学部校舎屋上防水等改修
	令和5年度	(五福) 総合研究棟外壁等改修
	令和6年度	(五福) 大学院実験研究棟外壁等改修

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等	面積 (㎡)
狹隘解消整備	平成18年度補正	(五福) 人間発達科学部第1・2校舎	79
	平成19年度補正	(五福) サークル棟	426
	平成20年度補正 (1次)	(五福) 共通教育棟C棟	50
	平成21年度1次	(杉谷) 総合研究棟 (薬学系)	2,070
	平成22年度1次	(五福) 学生会館	690
	平成24年度当初	(杉谷) 生命科学先端研究センター動物棟新営	475
	平成24年度補正 (1次)	(五福) 総合研究棟 (工学系) 新営	6,378
		(五福) 総合情報基盤センター新営	990
		(五福) 大学食堂新営	694
		(杉谷) ヘリポート新営	841
		(杉谷) 図書館新営	1,133
	平成25年度当初	(杉谷) 福利棟等新営	419
		(杉谷) 総合研究棟 (医学薬学系) 新営	6,992
	平成29年度当初	(杉谷) 総合研究棟改修 (R I 動物実験センター)	1,270
	令和元年度当初	(医病) 厨房棟その他	1,710
	令和2年度当初	(杉谷) 総合研究棟改修 (医学系)	2,600
	令和2年度補正	附属病院トリアージ施設新営その他工事	425
令和3年度当初	(医病) 病棟改修 (リハビリテーション)	1,070	
計			26,709

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等	面積 (㎡)
基幹整備	平成24年度予備費	(杉谷) 附属病院基幹整備 (自家用発電設備(地下燃料タンク設置)整備)	—
	平成24年度補正(1次)	(五福) ライフライン再生 (屋外通信線)(屋外ガス管改修) (工学部生物系実験研究棟等エレベーター改修) (中央図書館等エレベーター改修)	—
		(杉谷) ライフライン再生(空調設備等)	—
		(高岡) ライフライン再生 (給水設備等改修)(耐震対策)	—
	平成27年度当初	(医病) 基幹・環境整備(冷熱源設備)	—
	平成28年度当初	(杉谷) ライフライン再生(特高受変電設備)	—
		(医病) 基幹・環境整備(特高受変電設備更新等)	—
	平成30年度当初	(高岡) ライフライン再生(電気設備)	—
	令和元年度当初	(五福) ライフライン再生(特高受変電設備)	—
		(杉谷) ライフライン再生(給排水設備)	—
		(高岡) ライフライン再生(空調設備)	—
	令和元年度補正	(寺町) 基幹・環境整備(擁壁安全対策)	—
	令和2年度当初	(医病) ライフライン再生(給排水設備等)	—
		(医病) ライフライン再生(防災設備等)	—
		(五福) ライフライン再生(空調設備)	—
		(杉谷) ライフライン再生(給排水設備)	—
	令和2年度補正	(杉谷) ライフライン再生(給排水設備)	—
		(杉谷) ライフライン再生(電気設備)	—
		(五福他) 基幹・環境整備(衛生対策等)	—
	令和3年度当初	(医病) ライフライン再生(給排水設備)	—
(医病) ライフライン再生(受変電設備等)		—	
令和5年度補正	(五福) ライフライン再生(給水設備)	—	
	(杉谷) ライフライン再生(熱源設備)	—	
計			—
合計			103,721

図表—32.2 施設費貸付金による整備事業一覧（平成17年度～令和6年度）

重点整備項目	示達通知区分	整備建物等	面積（㎡）
大学附属病院整備	平成18年度1次	（附病）基幹・環境整備（変圧器等）	—
	平成19年度1次	（附病）基幹・環境整備（蓄熱設備等）	—
	平成20年度1次	（附病）基幹・環境整備（自家発電設備等）	—
	平成20年度1次	（附病）病棟	13,000
	平成21年度1次	（附病）基幹・環境整備（中央監視設備等）	—
	平成22年度当初	（杉谷）基幹整備（特高受電設備等）	1,577
	平成23年度当初	（杉谷）附属病院病棟改修	18,791
		（杉谷）附属病院病棟新営	331
	平成24年度当初	（杉谷）基幹整備（中央機械室ボイラー更新等）	—
	平成25年度当初	（杉谷）基幹整備（特高受電設備等）	—
		（杉谷）附属病院（中診・外来棟）改修	19,983
		（杉谷）附属病院（中診・外来棟）新営	3,057
	令和5年度当初	（医病）MRI棟新営	1,180
計			57,919

図表—32.3 施設費交付金による整備事業一覧（契約金額1千万円以上）（平成17年度～令和6年度）

整備年度	整備建物等
2006（H18）年度	（杉谷）和漢医薬学総合研究棟特殊空調改修
2007（H19）年度	（五福）共通教育棟多機能便所等取設
2007（H19）年度	（杉谷）中央機械室その他蒸気二方弁等取替
2008（H20）年度	（杉谷）陸上競技場改修
2008（H20）年度	（五福）特別支援学校その他外壁等補修
2009（H21）年度	（杉谷）講義実習棟実習室系統排水管等改修
2010（H22）年度	（立山）立山施設改修
2011（H23）年度	（五福）人間発達科学部附属小学校校舎外壁改修
	（五福）工学部北側駐輪場整備
	（五福）本部庁舎エレベーター改修
	（杉谷）医学部研究棟昇降機設備改修
2012（H24）年度	（杉谷）医薬学図書館昇降機設備改修
	（杉谷）受水槽上水用緊急遮断弁取設
	（五福）給水メーター取替

整備年度	整備建物等
2013 (H25) 年度	(五福) 困障改修
	(杉谷) 看護師宿舎エレベータ改修
	(杉谷) 構内量水器取替
2014 (H26) 年度	(五艘) 人間発達科学部附属小学校校舎等空調設備改修
	(五福) 第2体育館トレーニングルーム等天井改修
	(杉谷) 構内量水器等取替
	(五福) 人文学部校舎等エレベーター改修
2015 (H27) 年度	(五福) 共通教育棟 (B棟) 等外部建具改修その他工事
	(五艘) 人間発達科学部附属小学校校舎等空調設備改修工事
2016 (H28) 年度	(高岡) H棟屋上防水改修工事
	(五福) 総合情報基盤センター等改修工事
2017 (H29) 年度	(五福) 第3体育館屋根等改修工事
	(五福) 黒田講堂受変電設備改修工事
2018 (H30) 年度	(高岡) ライフライン再生 (受変電設備) 工事
	(高岡) D棟屋上防水等改修工事
	(五福) 電子情報実験研究棟屋外鉄骨階段改修工事
2019 (H31・R1) 年度	(五福) 第3体育館等外壁改修その他工事
	(五福) 中央図書館等空調設備改修工事
2020 (R2) 年度	(五福) 中央図書館二酸化炭素消火設備改修
	(五福) 経済学部研究棟エレベーター改修
	(杉谷) 看護学科研究棟空調設備改修
	(杉谷) 生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設エレベーター (2号機) 改修
	(五艘) 日常生活訓練施設屋根瓦改修
2021 (R3) 年度	(高岡) A・B1棟屋上防水改修
	(杉谷) 医・薬学部研究棟空調電源設備改修
	(五福) 受電室等受変電設備改修
2022 (R4) 年度	(五福) 電子情報実験研究棟屋上防水改修
	(五福) 化学生物実験研究棟屋上防水改修
2023 (R5) 年度	(五福) 中央図書館外壁改修
2024 (R6) 年度	(五艘) 附属小学校校舎屋上防水改修
	(五艘) 附属中学校校舎等屋上防水改修

図表-32.4 自己資金等による整備（増築と契約金額1千万円以上の改修）（平成17年度～令和6年度）

整備年度	整備建物等	面積（㎡）
2007（H19）年度	（杉谷）附属病院保育所	242
	（五艘）附属中学校用具庫	41
	（杉谷）附属病院腫瘍科外来改修	—
2008（H20）年度	（高岡）芸術文化学部共通造形棟	178
	（杉谷）生命科学先端研究センターRⅠ棟改修	—
	（杉谷）解剖棟解剖実習室換気設備改修	—
2009（H21）年度	（寺町）学生寄宿舍	877
	（杉谷）民族薬物資料館増築	940
	（五福）創造工学センター	165
	（五福）サークル棟	120
	（五福）工学部化学系実験研究棟便所改修	—
	（五福）職員会館改修	—
	（杉谷）手術部手術室9その他改修	—
2010（H22）年度	（杉谷）看護学科研究棟増築	1,673
	（杉谷）職員会館増築	92
	（五福）極低温量子科学研究センター	209
	（立山）立山施設改修	—
	（南太閤山）南太閤山宿舍4号棟改修	—
2011（H23）年度	（杉谷）医学部研究棟特殊空調設備改修	—
	（五艘）五艘団地等基幹整備（受変電設備等）	—
	（五福）工学部共通講義棟改修	263
	（五福）人間発達科学部第3校舎等空気調和設備	—
	（五福）人文学部校舎等空気調和設備改修	—
	（杉谷）生命科学先端研究センター動物棟空調設備改修	—
	（五福）総合研究棟低温実験室空調機改修	—
	（五福）総合情報基盤センター等空気調和設備改修	—
	（杉谷）附属病院外来化学療法センター改修	164
	（杉谷）民族薬物資料館3階改修	359
（寺町）学生寄宿舍（A棟）改修	1,839	

整備年度	整備建物等	面積 (㎡)
2012 (H24) 年度	(杉谷) 解剖棟空調設備改修	—
	(五福) 基幹整備 (受変電設備改修)	—
	(五福) 人間発達科学部技術科教棟改修	642
	(五福) 人間発達科学部附属幼稚園舎他防水等改修	—
	(五福) 人文学部校舎等空調設備	—
	(杉谷) 講義実習棟等屋上防水改修	—
	(杉谷) 省エネルギー対策	—
	(五福) 総合研究棟空調設備改修	—
	(杉谷) 附属病院総合臨床教育センター新営	1,327
	(杉谷) 附属病院病理部換気設備改修	—
平成24年度補正 (1次)	(杉谷) 附属病院中央診療棟医療情報部 コンピューター室改修	43
	(杉谷) 附属病院病棟等改修機械設備 (中央診療棟医療情報部消火設備改修)	—
	(五福) 総合情報基盤センター新営	990
	(五福) 非常時対応拠点施設新営	707
	(高岡) 非常時対応拠点施設新営	386
	(寺町) 非常時対応拠点施設新営	270
2013 (H25) 年度	(杉谷) 福利棟等新営	419
	(五福) 中央図書館等空調設備改修	—
	(五福他) サイン改修	—
	(杉谷) 講義実習棟給排水設備改修	—
	(五福) 経済学部校舎等空調設備改修	—
	(五福) 人間発達科学部附属小学校校舎等空調設備	—
平成25年度当初	(西田地方) 宿舎B-1耐震改修	856
	(五艘) 人間発達科学部附属特別支援学校校舎改修	2,957
	(杉谷) ライフライン再生 (空調設備など)	—
	(杉谷) 体育館改修	1,495
2014 (H26) 年度	(五福) 共通教育棟 (B棟) 耐震改修	498
	(五福) 共同利用棟空調設備改修	—
	(五福) 総合研究棟動物飼育室改修	121
	(五福) 本部庁舎前環境整備	—
	(杉谷) 和漢医薬学総合研究棟空調設備改修	—
	(杉谷) 附属病院中央診療棟 医療情報医療情報ネットワーク設備改修	—
(杉谷) 附属病院北病棟福利施設改修	104	

整備年度	整備建物等	面積 (㎡)
2015 (H27) 年度	(五福) 工学部共通講義棟改修工事	—
	(五福) 工学部共通講義棟改修電気設備工事	—
	(五福) 工学部共通講義棟改修機械設備工事	—
	(杉谷) 基幹・環境整備(駐車場)工事	—
	(五福) 共同利用棟さく井その他工事	—
	(五福) 工学部大学院実験研究棟等空調設備改修工事	—
2016 (H28) 年度	(五福) 基幹整備(給水管改修)工事	—
	(五福) 中央図書館空調設備改修工事	—
2017 (H29) 年度	(五福) 共通講義棟改修	1,021
	(五福) 第2大学食堂新営	434
	(五福) 第2大学食堂改修	442
2018 (H30) 年度	(杉谷) 看護学科研究棟空調用電源改修	—
	(五福) 中央図書館等空調設備改修	—
	(五福) 第2大学食堂便所改修	25
2019 (R1) 年度	(五艘) 人間発達科学部附属学校ボイラ室等とりこわしその他	—
	(五福) 中央図書館空調設備改修	—
	(杉谷) 管理棟便所改修	—
	(五艘) 人間発達科学部附属中学校渡り廊下改修その他	—
2020 (R2) 年度	(杉谷) 附属病院外来棟外来化学療法センター改修	508
	(五福) 事務局等受変電設備改修	—
	(杉谷) 附属病院南病棟無停電電源装置改修	—
2021 (R3) 年度	(五福) 人間発達科学部第3棟改修	1,237
	附属病院中央機械室自家発電設備制御装置改修	—
	附属病院駐車場屋根新営その他	—
	(杉谷) 管理棟電話交換機設備改修	—
	附属病院病棟ナースコール設備改修	—
	西田地方宿舎B-1号棟改修	775
	(五福) 都市デザイン学部実験実習棟等改修	406
	(五福) 大学院実験研究棟等便器取替	—
	(五福) 中央図書館エレベーター改修	—
	(五艘) 人間発達科学部附属中学校校舎等火災受信機更新	—
	附属病院医療用無停電電源装置改修	—
(五福他) 照明器具LED化改修	—	
(五艘) 人間発達科学部附属中学校校舎外壁等改修	—	

整備年度	整備建物等	面積 (㎡)
2022 (R4) 年度	(五福他) 照明器具LED化改修 (その2)	—
	(杉谷) 国際交流会館外壁等改修	—
	五福宿舎3号棟改修 (I期)	625
	附属病院医療情報部コンピューター室空調設備改修	—
2023 (R5) 年度	附属病院北側外来駐車場新営その他	
	附属病院直流電源装置蓄電池取替	—
	(五福) 中央図書館屋上防水改修	—
	(五福) 黒田講堂屋上防水改修	—
2024 (R6) 年度	(五福) 水素同位体科学研究センター外壁改修	—
	附属病院中央機械室自家発電 (1号機) 設備制御装置改修	—
計		

図表一. 他省庁, 県補助金による整備 (増築と契約金額1千万円以上) (令和3年度~令和6年度)

整備年度	整備建物等	面積 (㎡)
2021 (R3) 年度	附属病院北病棟7階感染症病室改修その他	
2022 (R4) 年度	(高岡) 先進軽金属材料国際研究機構共同研究棟新営工事	2,545
計		



附属病院中診・外来棟

(H25-H29年度: 杉谷キャンパス)



ヘリポート



第2大学食堂

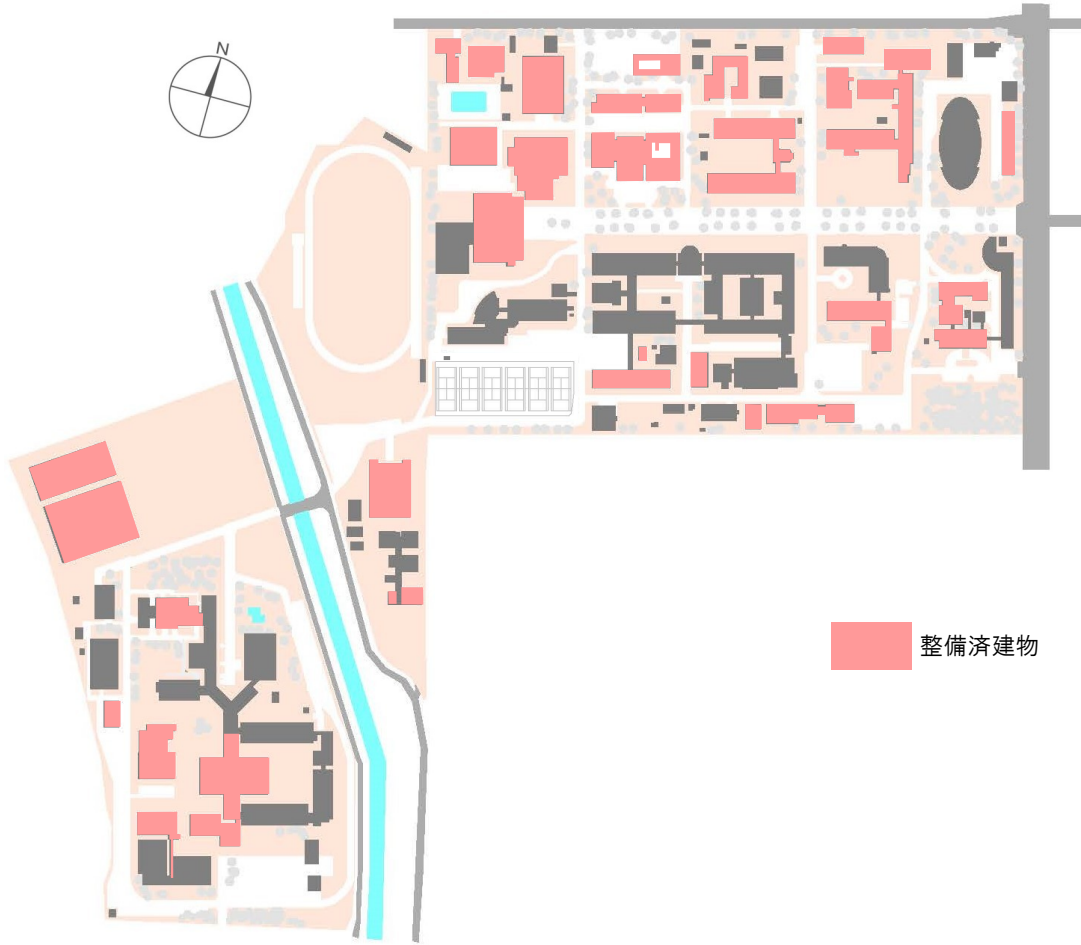
(H29年度: 五福キャンパス)



都市デザイン学部実験実習棟

(H30年度: 五福キャンパス)

図表-32.5 五福キャンパス 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図

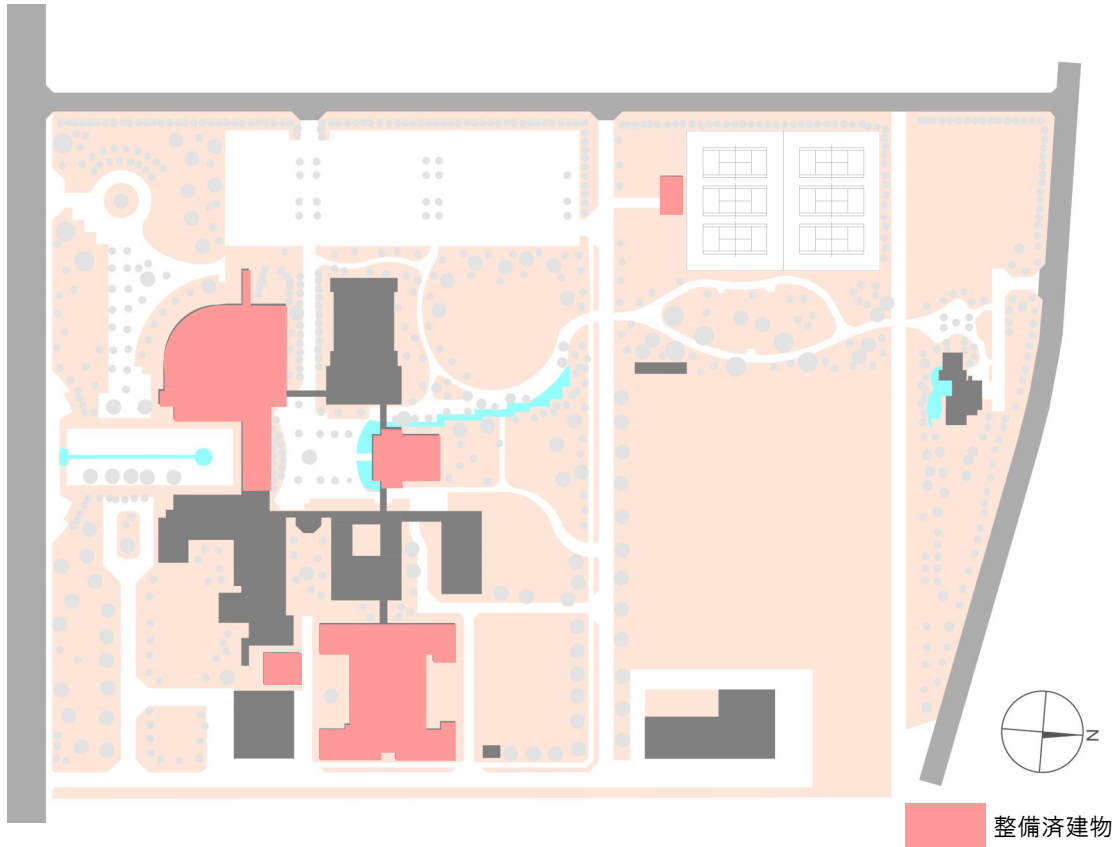


図表-32.6 杉谷キャンパス 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図



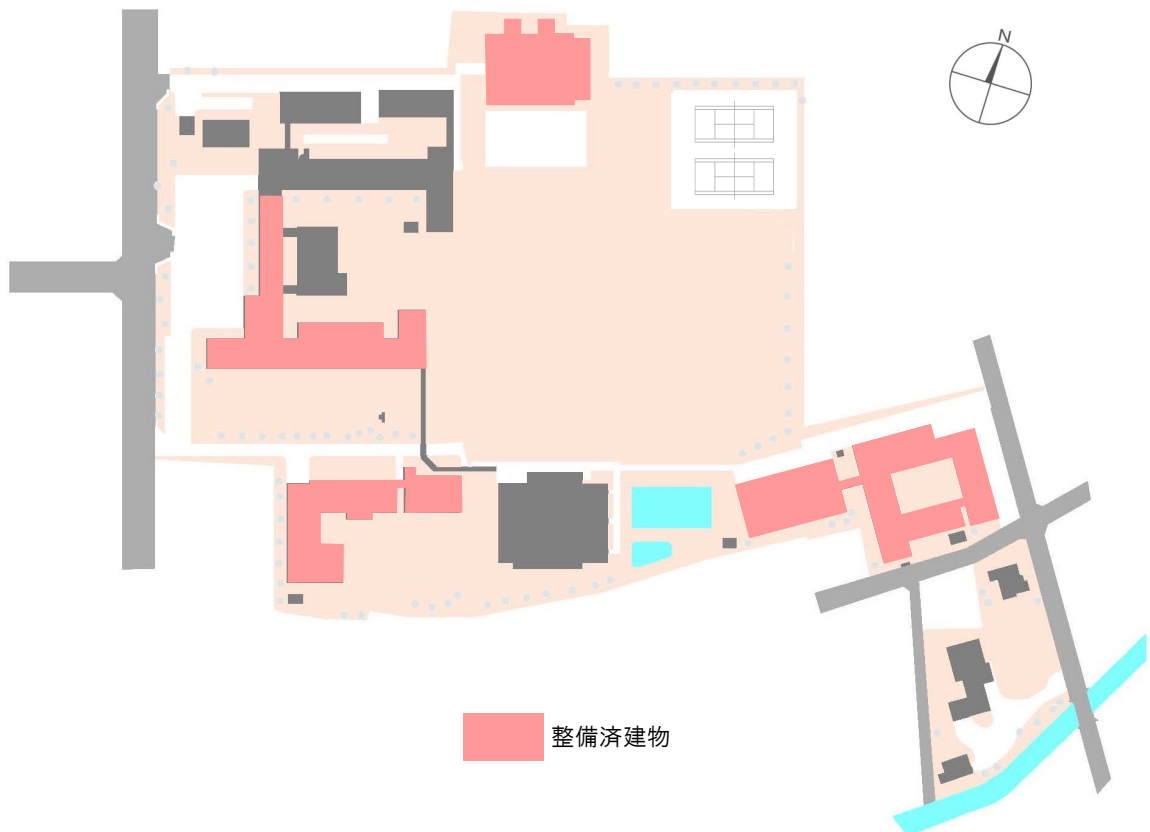
図表-32.7

高岡キャンパス 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図



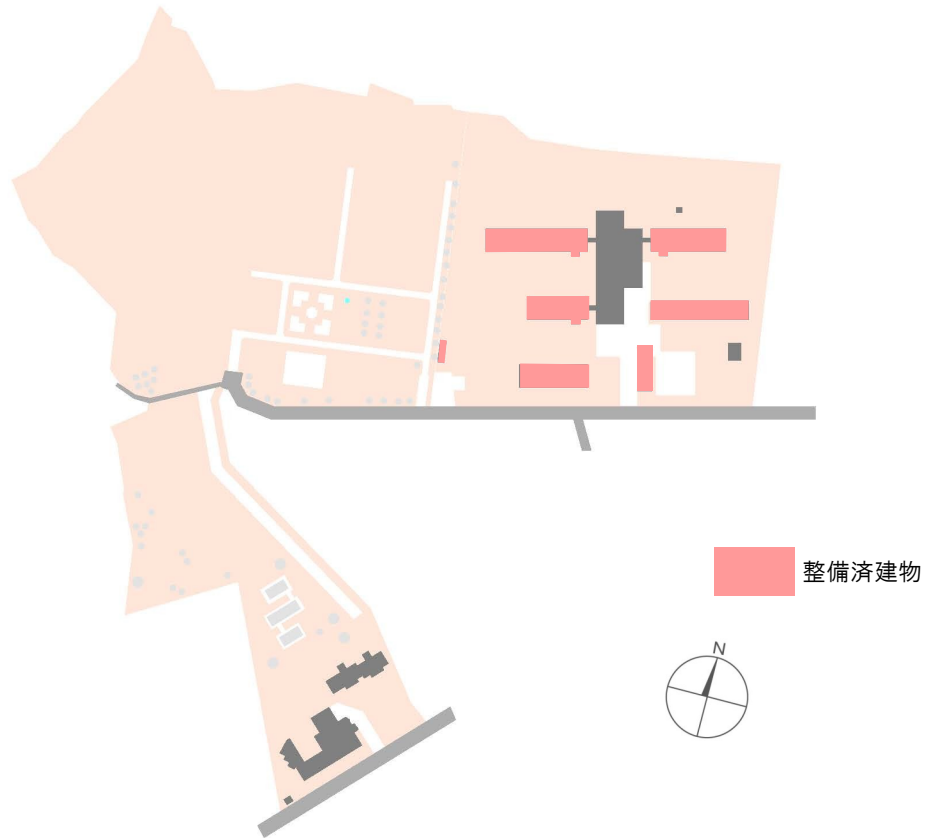
図表-32.8

五艘団地 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図



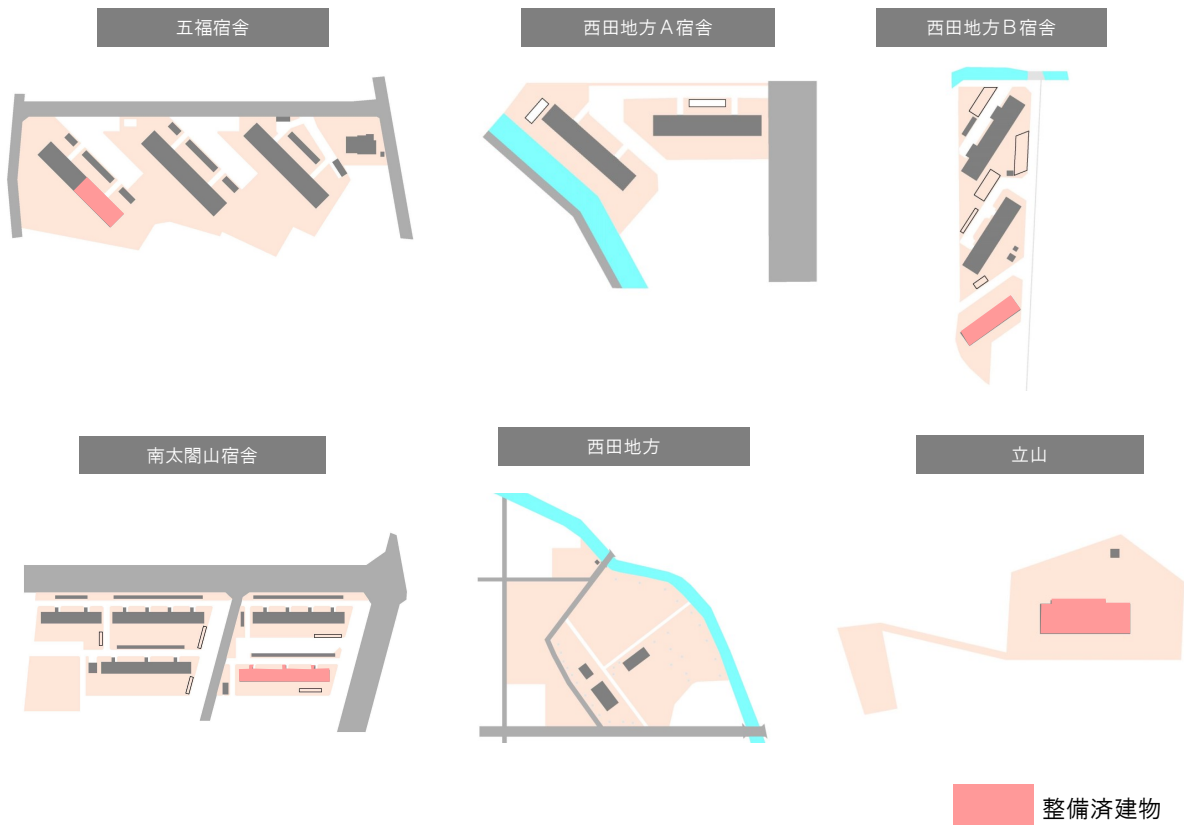
図表-32.9

寺町団地 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図



図表-32.10

実験実習地等 第2次・第3次及び第4次国立大学等施設整備5か年計画期間における整備済建物配置図



**1. これまでの課題について**

「キャンパスマスタープラン2020」で指摘されていた課題のうち、優先度の高い老朽建物やライフラインの改善、及び大学改革に対応する校舎や福利厚生の拡充等について、一定の成果が得られたと言える。一方で、老朽施設は年を追うごとに増加することに変わりはなく、今後も継続的な老朽改善に取り組んでいくことが重要である。

**2. 安全・安心なキャンパスの提供について**

「24. 災害と安全性を考慮したキャンパス計画」による。

**3. 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠なスペースの確保について**

教育研究活動の活性化や高度化、多様化に伴い必要となるスペースや、狭隘化している施設等のスペースを確保する必要がある。

**4. 国立大学改革方針とキャンパス整備**

大学改革の推進のための様々な取組について、必要なキャンパス整備を進め、改革推進の相乗効果が得られるように支

援していく必要がある。

**5. 施設管理に関する問題**

施設管理の財源に関する問題等について、引き続き解決していく必要がある。

**6. 基幹設備（ライフライン）に関する課題**

基幹設備の老朽化が進行しており、事故の発生を抑制しリスクを回避するため、定期点検や予防保全を実施し、機能不全となる前に計画的に更新していくことが極めて重要である。

また、トップランナー方式と呼ばれる温暖化ガス抑制効果の高い機器の採用や、再生可能エネルギーの採用及び災害に強いシステムや材料を選定して、クリーンで安定的な供給を行う必要がある。

**7. 都市計画による規制**

五福キャンパスは、富山市高度地区指定により、高さ20mを超える建物は新たに建設できない。

また、杉谷キャンパス及び寺町団地は市街化調整区域であり、大学及び病院の用途の建物については、一定の制限がされている。

**1. これまでの課題の解決についての提案**

キャンパスマスタープラン2020の検証によって課題とされた点について、その改善策を次に提案する。

**(1) 老朽化した施設の改善策**

附属学校園を含め、全体の半分程度残っている老朽建物の解消について、文部科学省に概算要求を行い改善を図る。

施設整備費補助金以外の補助金、寄付金、ネーミングライツ等の多様な財源を確保する。

**(2) 緑地保全策**

五福キャンパスのゆりの木通りの歩行者動線等に配慮しつつ、樹木の保護及び維持管理計画の検討を進め改善を図る。

**(3) 駐車場及び駐輪場等の確保策と維持管理策**

駐車場について、五福キャンパスでは、駐車場のゲート化、有料化、杉谷キャンパスでは、患者用駐車場整備等の計画の検討を進め改善を図る。駐輪場については、各キャンパス構内における敷地利用の再検討を進め改善を図る。

**(4) ユニバーサルデザイン計画**

建物内部のユニバーサルデザイン化の検討を進め改善を図る。

また、大規模改修を伴わなかった施設の建物周辺及び内部のバリアフリー化の検討を進め改善を図る。

**(5) 福利・国際交流施設**

留学生宿舎や国際交流施設等といった整備構想の実現のため民間事業者と連携して実施するPPP事業等の多様な手法による検討を図る。

(6) サイン、アート計画

サイン計画は、駐車・駐輪スペース、各建物内部のサインについて、「富山大学サイン計画」に基づき整備を推進する。

また、アートを設置するスペースの創出、空間利用の手法の検討を進める。

2. 安全・安心なキャンパスの提供について

「24. 災害と安全性を考慮したキャンパス計画」による。

3. 高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠なスペースの確保について

教育研究活動の活性化や高度化、多様化に伴い必要となるスペースや、文部科学省が補助金交付の基礎としている基準面積を下回り、狭隘化している施設及び部局への整備については、施設整備型から運営計画型の施設マネジメントへの移行を推進し、大学経営の効率化の観点から大学改革の動向に備えた施設利用の柔軟性確保（面積の再配分の道筋）や既存ストックの有効活用を徹底したスペースマネジメントを推進し、保有すべき面

積の最適化（身の丈に合った保有量の確保と健全化）を進めて必要なスペースの確保を図る。

財源については、施設整備費補助金のほかLCC※の検証及びESCO事業※等の継続によるトータルコスト低減と平準化への取組（施設総合管理計画）の検討といったコストマネジメントを推進し、PPP※等の新たな手法を含めた多様な財源を活用して整備することについても考慮に入れて検討を行う。

また、環境マネジメントの推進体制の整備・充実が求められる。

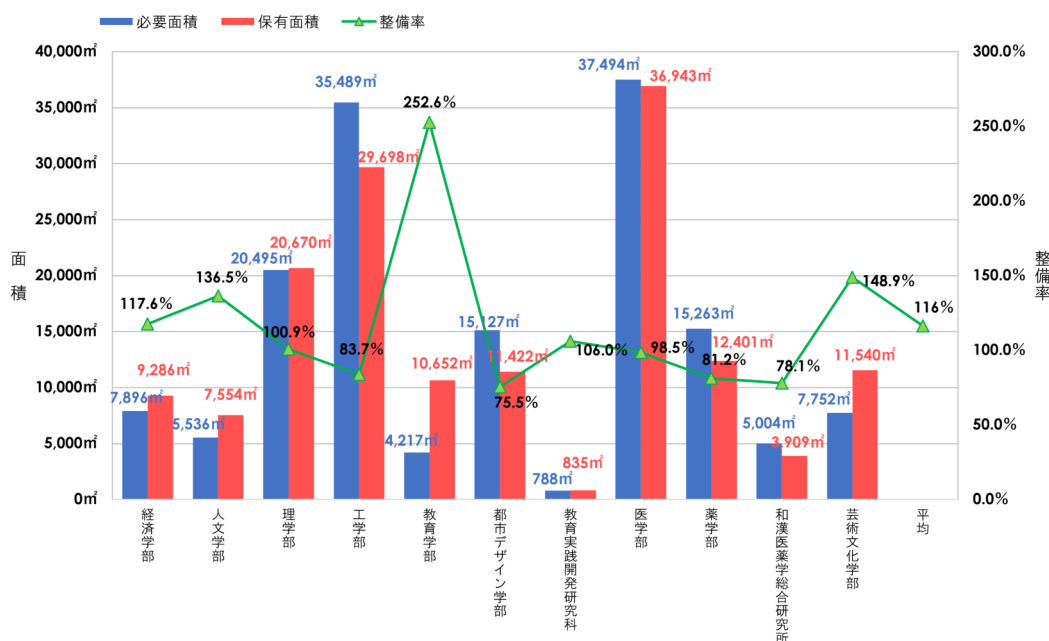
2025（R7）年における基準面積に対する保有面積と整備率については、図表-33.1のとおり。

LCC：（Life cycle cost）製品や構造物などの費用を、調達・製造～使用～廃棄の段階をトータルして考えたもの。

ESCO事業：（Energy service company事業）顧客の高熱水費等の削減を行い、削減実績から対価を得るビジネス形態のこと。

PPP：（Public Private Partnership）民間事業者が公営事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者者に任せる民間委託などを含む手法。

図表-33.1 各部局の必要面積、保有面積及び整備率〔2025（R7）年5月現在〕



(参考) 学部・大学院の基準面積の算出式国立大学法人等建物面積算出表（2025年度）より  
 $(111Pr1+64Pr2) + (44A1+17A2) + (35D1+14D2) + (29M1+9M2) + (17S1+6S2)$  ㎡

- Pr1：理系の教授，准教授，講師数
- Pr2：文系の教授，准教授，講師数
- A1：理系の助教及び助手数（病院教員数を含む）
- A2：文系の助教及び助手数
- D1：理科系の博士課程大学院生数（完成定員）
- D2：文科系の博士課程大学院生数（完成定員）
- M1：理科系の修士課程大学院生数（完成定員）
- M2：文科系の修士課程大学院生数（完成定員）
- S1：理科系の学部等（3年生以上）学生数（完成定員）
- S2：文科系の学部等（3年生以上）学生数（完成定員）

#### 4. 国立大学法人等改革基本方針と キャンパスの整備

国立大学法人等改革基本方針は、2028年度から始まる第5期中期目標期間に向け、中央教育審議会答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」等を踏まえ、各国立大学法人が自らのミッションや機能強化の方向性に沿った改革を進めていくこととされており、ここでその内容について取り上げてみる。

#### 国立大学法人等改革基本方針 (令和7年11月4日) ※一部抜粋

#### 2. 機能強化の方向性に沿った財務戦略、人事戦略、マネジメント体制の抜本的強化

##### (1) 財務戦略

- 資金に加え、自らが保有する土地や建物、知の資産の棚卸し
- ミッション・機能強化の方向性に沿った法人内での資産の活用や学内配分の最適化
- ミッション・機能強化の方向性に沿った共創拠点化の推進、現有施設の機能や使い方の見直し

#### 3. 機能強化の方向性に沿った組織の見直し

##### (2) 附属施設

- 附属施設（附属学校、附属病院、農場、演習林、家畜病院、飼育場又は牧場、練習船、養殖施設、薬用植物園等）の規模等について、機能強化の方向性に沿った見直し
- 附属病院について、
  - ・附属病院の診療科別の収支分析のさらなる推進、大学病院の貸借対照表の作成など資産状況の把握の在り方の検討、将来の地域での医療需要を見据えた診療規模の適正化など、経営基盤強化の推進
  - ・地域の医療提供体制について自治体を含

めたステークホルダーとの対話とコスト負担を含めた必要なリソース分担の積極的推進

等を通じた持続的な病院経営の実現に向けた方策の推進

○附属学校について、各法人のミッション・機能強化の方向性、社会からの期待を踏まえた在り方の検証や、設置される附属学校の数、種類、規模等についての整理と必要な見直し及びそれに併せた教員養成大学・学部

##### (3) 再編統合・連携等

○一定の規模が機能強化に有効と考えられる産学連携・スタートアップ創出・成長支援機能、汎用性の高い研究基盤設備、共通事務や各種システムの共用化の実施、地域の様々なステークホルダーとの連携や戦略的な施設の共有による共創拠点化など、機能面に沿った連携の検討

#### 5. 研究力の強化

##### (1) 研究の幅の確保

○学問の進展や新たな学問分野・融合領域に迅速に対応する研究体制を構築するためのシステム改革や、高度な研究マネジメント（研究開発マネジメント人材・技術職員等の専門人材、施設・設備・機器の共用等）の体制構築

#### 6. 1.～5.を踏まえた文部科学省における取組

(2) 各国立大学法人等の機能強化の促進に向けた財政的支援方策等の検討

○近年の物価・人件費の上昇等も踏まえつつ、国立大学法人運営費交付金や施設整備費補助金等の基盤的経費の着実な確保の推進



PRINCETON UNIV.

以上のように、改革の方向性と論点が示されており、本学においても大学改革の推進のための様々な取組について、必要なキャンパス整備を進め、改革推進の相乗効果が得られるように支援していく。

## 5. 施設管理に関する問題

2002年に文部科学省の調査研究協力者会議がまとめた報告書から、約20年が経過した現在においても、問題として認識すべき指摘について、以下に取り上げる。

※「知の拠点」を目指した大学の施設マネジメント  
—国立大学法人（仮称）における施設マネジメントの在り方について—  
（平成14年5月）今後の国立大学等の施設管理に関する調査研究協力者会議より

### ①施設管理と財源の問題

#### a.施設管理に関する不十分な対応

- ・施設・設備については、最低限の点検等が行われているものの、高度化・多様化する教育研究の要請に対して、十分な対応がなされているとは言い難い。
- ・教育研究の急速な変化に対して、施設の維持管理に必要な人的支援や財源措置が追いつかず、更には傷み具合の把握や対策が遅れ、その結果、施設は深刻な老朽化を生じている。また、一方では老朽化の進行に対し適切な手を打たず、改築を待つという傾向も状況が悪化させる一因となっている。
- ・現在、施設の総量的不足がある一方で、一部においては、施設の利用形態に応じた適切なスペース配分が行われていないために、過度に狭隘化している状況もある。また、学部学科再編や定員削減に際して、学部学科の枠を越えたスペースの再配分が適切に行われていないことによる狭隘化も生じている。

#### b.施設管理に要する予算不足

- ・国立学校建物の修繕に係る予算は、その平均単価は年間約750円/㎡程度である。なお、各国立大学においては、施設の老朽状況や模様替え等の必要性から、この予算に加えて校費等の一部を修繕に充てているが、研究費等の必要経費に充当することが優先されることから、十分な修繕が行われないことも老朽化の要因の一つになっている。
- ・一方、民間オフィスビルにおいては年間約2,600円/㎡程度の修繕を実施しており、教育研究施設と商業用テナントビルという違いがあり単純に比較することはできないものの、これらの与

条件を考慮してもなお格差があるといえる。

### ②学部単位による施設管理と画一的配分に起因する問題

#### a.学部単位による施設管理の弊害

- ・大学においては、施設の多くは学部単位で管理運営されている。このため、全学的な施設利用などに関する合意形成に時間と労力が必要となっている。その結果、個々の学部内だけの限定された管理になりやすく、施設の稼働率の低下など経営的な面からの問題が生じている。

#### b.画一的配分の慣習

- ・施設の狭隘化の現状は、施設整備の遅れに起因するものであるが、学内におけるスペースの配分にも改善すべき点がある。実験の内容や実験機器の量、学生の数及び危険物の有無など教育研究活動の実態が様々であるにも関わらず、単に講座数などによりスペースを画一的に配分してきたことから、狭隘な室と余裕のある室の二極分化が発生している。また、全ての面積を画一的に配分することから、各分野の教育研究の特性に応じた弾力的な施設の活用を困難にし、必要に応じた適切なスペース配分とともに、プロジェクト型の研究や競争的資金による研究のためのスペースの確保が困難になっている。

### ③効率的な施設管理の意識の欠如

#### a.コスト意識の欠如

- ・これまで、とすれば施設は一種の消耗品であるとし、障害が生じたときに必要最小限の手当てをすればよいとの考え方から、メンテナンスを軽視しがちであった。

- ・施設の新増築や修繕の計画を立案する際、研究活動に必要な特殊な空調や内装、研究の期間や実験のレベルに見合う機能の水準設定並びにイニシャルコストとランニングコストについて、十分な検討が行われているとは言い難いものも見られる。
- ・各国立大学においては、教育研究活動に必要な施設機能を充足するための改修や修繕に関する問題点と必要経費が十分に把握されていない。

#### b.スペース管理意識の欠如

- ・不要な機器類が研究室や実験室に設置されたままになっていることも、狭隘化の一因である。また、共用可能なOA機器や実験機器、書籍等をそれぞれの研究室に重複して設けるなど非効率なケースもある。

- ・類似した用途の室を重複して設置したり、講義室の使用時間帯に偏りがあるなど、稼働率を向上させるための検討が不足しているケースもある。

#### c.サービス意識の欠如

- ・施設整備は多額の予算執行を伴うものであり、施設担当職員は法令上、予算執行に際して重大な過失があった場合の弁償責任が課されている。このため、施設の新増築に当たり、手続き事務の基準やマニュアルに必要以上にしばられ、施設利用者の立場に立って、その要請や意見を聞く姿勢に欠けることがあり、結果として、利用者へのサービスが不十分になりかねない。

## 6. 基幹設備（インフラストラクチャー）に関する現状と課題

基幹設備とは、教育研究診療活動の機能を維持していくために必要な電力、通信、ガス、情報、給水、排水、空調、エレベーター、監視制御等の建築設備の主要な部分とその幹線部分を指し、キャンパス整備においては実験機器等の設備との混同をさけるため、インフラ（インフラストラクチャー：infrastructureの略）と呼ばれている。また、基幹設備のうち生活（教育研究診療活動）を最低限維持しなければならない設備をライフラインと呼んでいる。

各キャンパスの主な基幹設備の現状と課題は次のとおり。

### （1）五福キャンパス

#### ①電力関係

- 北陸電力(株)と3,650kWの22kV特別高圧受電契約（予備契約3,500kW）を行い、電気室24か所を経て各建物に配電している。
- 最大使用電力は2024年度実績で3,248kW〔2025年1月〕となっているが、例年夏季及び冬季は空調設備の運転抑制による契約電力超過抑制を行っているため、契約電力以内であるが、今後、建物整備や空調設備の更新及び新規設置に伴い、契約電力の見直しが必要となる。
- 将来的に五福キャンパスの研究室・

実験室に設置された100台のGHPをEHPに更新した場合の電力量増加分は、600kW程度と想定されるほか、キャンパス内の施設約3万㎡を機能改善（改修）整備を行うと、4,200kWを上回ると想定される。

高圧電力の送電限界のひっ迫が懸念される中、電源供給の信頼性向上と、今後の電力需要の増加に柔軟に対応するため、2019年度に22kVの特別高圧受変電設備整備が事業化され2022年3月に受電した。

#### ②ガス関係

- 都市ガスは日本海ガス(株)と契約を行い、4系統でキャンパス内に引き込みしている。
- 理学部等系統（人文、体育施設、福利施設）は、外面樹脂被覆管200Aを使用し土中埋設〔1996年設置、延長約510m〕により供給している。
- 工学部系統は、外面樹脂被覆管200Aを使用し土中埋設〔2013年更新、延長約1,200m〕により供給している。

- 教育学部等系統（経済，教育，本部・事務局）は，外面樹脂被覆管150Aを使用し土中埋設〔1996年設置，延長約440m〕により供給している。
- 留学生等系統（車庫）は，ポリエチレン管150Aを使用し土中埋設〔2009年設置，約20m〕により供給している。
- 3系統で使用されている外面樹脂被覆管は耐震性に難があり，今後，災害対策や老朽化により更新する際には耐震性の高いポリエチレン管等を採用する。

### ③給水（上水）系統

- 富山市の水道本管より4系統でキャンパス内に引き込んでいる。
- 校舎系統は240m<sup>3</sup>の受水槽〔2002年設置〕から各建物に重力式及び加圧ポンプ〔2002年設置〕で供給され，配管は主に共同溝内に〔2002年設置，延長約800m〕敷設している。
- 工学部系統は70m<sup>3</sup>の受水槽〔2014年更新〕から各建物に一部を除き重力式にて各建物に供給している。配管は主に共同溝内に〔2024年設置，延長約420m〕敷設しており，受水槽までの引込管は2009年度に更新済みである。重力式の各建物では冬季の寒波の影響により配管が凍結し，一時断水状態が発生しており，凍結対策が必要である。
- 体育施設系統は直結給水方式で給水され，配管は土中埋設〔2025年設置，延長約100m〕している。
- 留学生センター系統は直結給水方式で給水され，配管は土中埋設〔1988年設置，延長約20m〕している。

### ④洗浄水・融雪・地中熱利用空調用水系統

- 洗浄水・融雪・地中熱利用空調用水は井水を利用しており，本部地区に1箇所（300φ深さ40m），工学部地区に1箇所（300φ深さ41m）及び融雪用として1箇所（300φ深さ40m）及び地中熱利用空調用として1か所（300φ深さ40m）の計4箇所の井戸を有している。
- 校舎系統は240m<sup>3</sup>の受水槽〔2002年設置〕から各建物に重力式及び加圧ポンプ〔2002年設置〕にてより供給され，配管は主に共同溝内に〔2002年設置，延長約800m〕敷設されている。
- 工学部系統は70m<sup>3</sup>の受水槽〔半地下式2024年設置〕から一部の建物を除き重力式にて各建物に給水され，配管は主

に共同溝内に〔2024年設置，延長約530m〕敷設しており，重力式の各建物では冬季の寒波の影響により配管が凍結し，一時断水状態が発生し，凍結対策が必要である。

- 融雪用水系統は土中埋設〔1994年設置，延長約700m〕している。経年約31年となっており更新時期を迎えている。
- 地中熱利用空調用系統は土中埋設〔2014年設置，延長約10m〕している。

### ⑤排水関係

- 生活排水は富山市公共下水道に排水している。
- 実験排水は希釈等により水質基準を満たしていることを確認し，下水道に放流している。
- 雨水は河川に放流している。
- これらの排水管は土中埋設〔1979年設置，延長約2,100m〕され，老朽化が進行していることから更新時期を迎えている。

### ⑥空調関係

- 本部地区は，2012年度に，中央暖房方式を廃止し，完全個別空調に移行済である。
- 工学部・都市デザイン学部地区は，2020年度から2021年度にかけてライフライン再生により中央暖房方式を廃止し，完全個別空調に移行済である。
- 空調設備の整備・更新にあたっては，環境・エネルギー対策の中・長期計画や費用対効果及び災害時のリスク分担のためエネルギー源の分散化等について十分に検討を行い更新計画を策定する。

## (2) 杉谷キャンパス

### ①電力関係

- 北陸電力(株)と6,200kWの特別高圧2回線受電契約を行い、電気室17か所を経て各建物に配電している。
- 最大使用電力は2024年度実績で5,808kW〔2022年8月〕となっており、これまでは常用発電機の連係運転により契約電力超過を抑えていたが、2011年2月に「杉谷キャンパスの電力需給・運用計画」を作成し、費用対効果を検証した結果、常用発電機の運転をやめ、電力会社から需給する方が電力の安定性、安全性が確保され、コストメリットもあることから、2011年10月に常用発電機の連係運転を停止した。

### ②ガス関係

- 都市ガスは日本海ガス(株)より供給、引込口径は200A、中圧で契約を行いキャンパス内に引き込み、ガバナで低圧にして各建物に供給している。
- 配管は共同溝内〔延長約1,700m〕と土中埋設〔延長約800m〕で供給しており、2021年度時点で1995年以前に設置したガスのライフライン（未改修建物内配管は含まない）は、1992年に設置された、中央機械室への中圧配管のみである、今後更新の計画が必要である。

### ③給水（上水）系統

- 富山市の水道本管より1系統で引き込んでおり、1,800m<sup>3</sup>の受水槽〔1997年設置〕から各建物に加圧ポンプ（2020年更新）で供給している。
- 配管は共同溝内〔延長約1,800m〕と土中埋設〔延長約1,800m〕で供給しており、2021年度時点で1995年以前に設置した給水のライフライン（未改修建物内配管は含まない）は、キャンパス敷地境界線設置の市水弁から量水器までの配管のみであり、開学当時に敷地の谷間に布設されており現状は施工が困難であるが今後更新の計画が必要である。
- また、融雪用水として上水を加熱して使用している。

### ④中水系統

- 現状中水は、市水により供給を行っている。

### ⑤排水関係

- 生活排水は富山市公共下水道に排水している。
- 雨水は河川に放流している。
- 生活排水の主管は2020年度ライフライン再生にて改修及び配管更生を行い2007年以前施工の配管は9割方完了した。残りの1割は建物改修時に施工の検討が必要である。  
実験排水の主管は2021年度ライフライン再生にて改修及び配管更生を行った。  
雨水の主管は2021年度ライフライン再生にて洗浄及び部分改修を行った。  
主管部分でない配管部は、建物改修と共に今後更新の計画が必要である。

### ⑥空調関係

- 空調用としてエネルギーセンターから冷水温水及び蒸気を附属病院及び学部建物等に供給している。
- 空調ボイラーは、6t/h×4基（2012年設置）。空調冷凍機は7基あり、ESCO設備2008年2基、ESCO設備2017年3基、2010年設置1基、2015年設置1基、となっている。
- 学部建物等については、EHP及びGHPによる空調が大部分を占めるため、個別建物にて今後更新の計画が必要である。特にGHPの老朽化が進んでおり早急な更新が必要である。
- 空調設備の整備・更新にあたっては、環境・エネルギー対策の中・長期計画や費用対効果及び災害時のリスク分担のためエネルギー源の分散化等について十分に検討を行い更新計画を策定する。

### (3) 高岡キャンパス

#### ①電力関係

- 北陸電力(株)と516kWの受電契約を行い、電気室2か所を経て各建物に配電している。
- 最大使用電力は2024年度実績で516kW〔2024年1月〕となっているが、令和4年度に軽金属材料共同研究棟が完成し、令和5年度から順次稼働しているため、契約電力は増える可能性が高い。  
受変電設備は2018年に更新済み。

#### ②ガス関係

- 校舎用、宿泊施設用はそれぞれプロパンガス(24,000kcal)23本を設置し、各建物に供給している。
- 配管は配管用炭素鋼鋼管(白ガス管)で共同溝内〔1986年設置、延長約550m〕で敷設している。
- 共同溝内の継手、フランジ部分の腐食があるため、計画的な修繕が必要である。

#### ③給水(上水)系統

- 高岡市水道本管より、2系統でキャンパス内に引き込んでいる。
- 校舎系統は4.5m<sup>3</sup>のFRP製受水槽〔1986年、配管及び加圧給水ポンプは2014年改修〕から各建物の1~2階に直結給水方式で給水し、3~4階は加圧給水方式で給水している。配管は主に共同溝内〔2014年改修、延長約590m〕に敷設している。
- 手洗い器や洗面器等の附帯設備は竣工当初のままで老朽化が著しいため、更新が必要である。
- 宿泊施設系統は市水直圧で給水され、配管は土中埋設〔2014年改修、延長約90m〕で引き込んでいる。

#### ④洗浄水系統

- 洗浄水として、富山県企業局の工業用水を引込み、72m<sup>3</sup>のコンクリート製地下受水槽〔1986年設置〕から各建物に加圧ポンプ〔2014年改修〕で供給し、配管は主に共同溝内に〔2014年改修、延長約590m〕敷設している。

#### ⑤排水関係

- 建物排水は高岡市公共下水道に排水している。
- 実験排水は貯留槽及び検出柵でpHをモニターして公共下水道に放流している。

- 雨水は河川に放流されている。
- 経年劣化の著しい屋外排水管、屋内排水管の更新計画及び洗管の計画が必要である。

#### ⑥空調関係

- 2020年度ライフライン再生により完全に個別空調方式へ移行済みである。

### (4) まとめ

基幹設備は大学の構成員の目に触れることも少なく、異常や不具合が生じて始めてその重要性に気付くことが多い。

また、老朽化が進行し、通りが悪くなったり、詰まったり、破裂したり、断絶したりして機能不全に陥る様から、人体に流れる血液や神経に例えられるように、まさに教育研究診療の生命線となっている。

このため、事故の発生を抑制しリスクを回避するため、定期点検や予防保全を実施し、機能不全となる前に計画的に更新していくことが極めて重要である。

更新計画にあたっては、個別空調方式に変えていくことを基本にし、環境・エネルギー対策の中・長期計画や費用対効果及び災害時のリスク分担のためエネルギー源の分散化等について十分に検討を行う。

## 7. 都市計画による規制

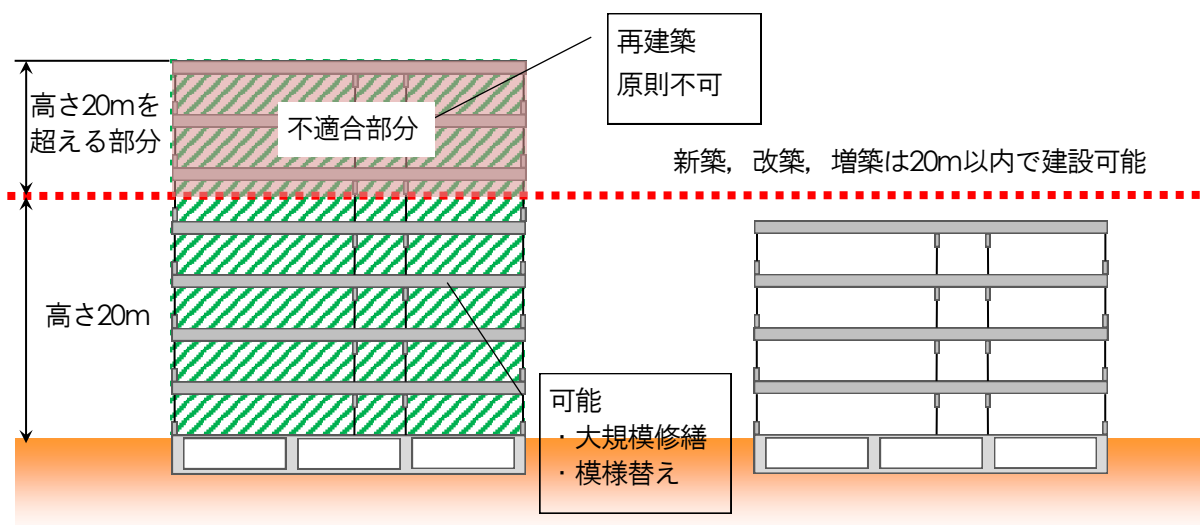
### (1) 五福キャンパス

2007年11月1日付けで富山市高度地区指定が施行され、図表-33.2のように高さ20mを超える建物は新たに建設できないようになっている。

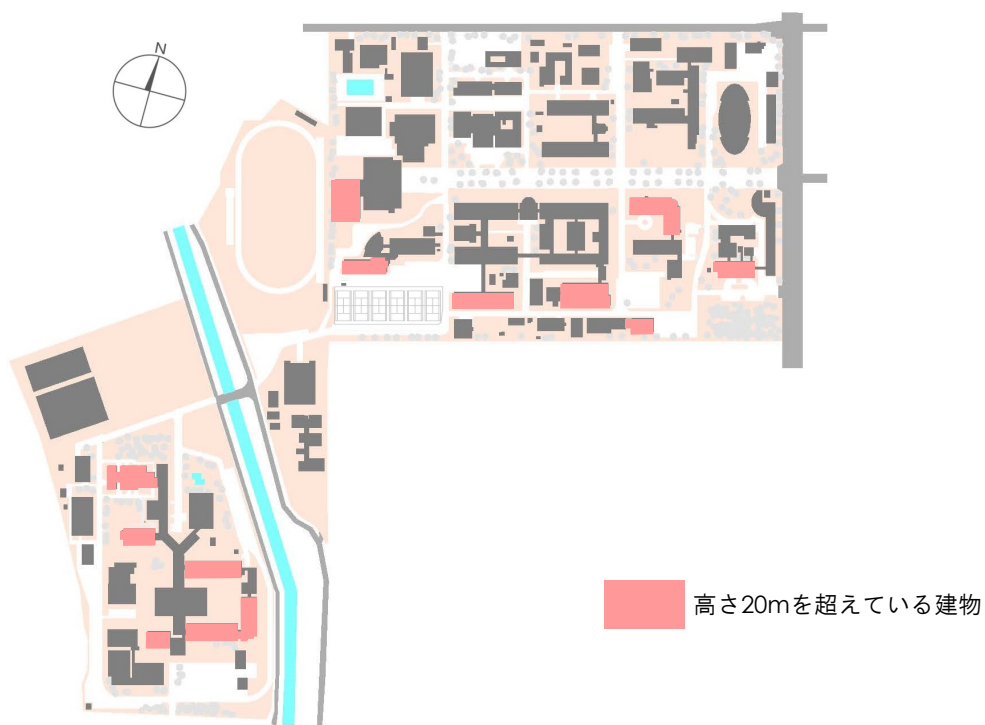
### (2) 杉谷キャンパス、寺町団地

市街化調整区域であり、大学や病院の用途の建物については、一定の制限がされている。

図表-33.2 高度地区の規制概念図



図表-33.3 高度規制により不適合となっている建物



# 参考資料

参考資料 1	第5次国立大学法人等施設整備 5か年計画の検証	152	
参考資料 2	第6次国立大学法人等施設整備5か年計画	153	
参考資料 3	国立大学法人等施設整備事業の選定の考え方	155	
参考資料 4	富山大学にかかわる地震・津波災害とその対策について	160	
参考資料 5	原子力緊急事態宣言発出後の体制	167	
参考資料 6	耐震性能を表す指標	168	
参考資料 7	施設に起因する破綻のシナリオ	169	
参考資料 8	施設整備費の推移	170	
参考資料 9	18歳人口と大学入学者等の推移	170	
参考資料10	国立大学法人のうち附属病院を有する総合大学25校の比較	171	
	学生数と建物延べ面積	171	
	学生及び教員1人当たりの建物延べ面積	172	
	男子学生数と女子学生数	172	
	留学生数と留学生の比率（留学生／学生数）	173	
	教員1人当たりの研究経費及び学生1人当たりの教育経費	173	
	土地固定資産と建物固定資産	174	
	施設整備補助金と投資活動によるキャッシュフロー	174	
参考資料11	富山大学の施設に関するデータ	175	
	保有面積と運営費交付金の推移	175	
	固定資産と減価償却の累計	175	
	Mid-Term（2040（R22）年）までの施設整備の需要の試算	176	
	空調機器の更新サイクルによる整備台数の試算	176	
	建築物用途別面積と割合	177	
	<STEP1>大学全体の過去6年間における延床面積と原油換算量	177	
	<STEP1>五福・杉谷・高岡キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	178	
	<STEP1>五福キャンパス（五艘団地含む）の光熱水費支出額と原油換算量	178	
	<STEP1>杉谷キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	179	
	<STEP1>高岡キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	179	
	<STEP1>大学全体の過去6年間における電気・ガス・重油の原油換算量	180	
	<STEP1>各団地の過去6年間における電気・ガス・重油の原油換算量	180	
	参考資料12	エネルギーマネジメントによる光熱水費削減の取り組み課題	181
	参考資料13	ZEB化実証事業	182
参考資料14	環境配慮活動令和7年度計画表（具体的活動・手引き）	183	
参考資料15	国立大学法人富山大学施設マネジメント委員会規則	185	
参考資料16	国立大学法人富山大学における施設の有効活用に関する規則	186	